

48111

デジタルビデオ監視システム

ユーザーマニュアル

目 次

第1章 はじめに	1
1.1 表記規則	1
1.2 ビデオカードの仕様	2
1.3 パッケージ内容	2
1.4 推奨するハードウェア	3
1.5 ビデオカードのインストール	5
1.6 ビデオカードの接続.....	8
1.7 カメラの接続.....	8
1.8 外付けセンサー/リレーの接続.....	9
第2章 ドライバのインストール	13
2.1 Windows 98SE/Me 環境でのドライバのインストール	13
2.2 Windows 2000 環境でのドライバのインストール	17
2.3 Windows XP 環境でのドライバのインストール	21
2.4 ビデオカードドライバのアンインストール	23
第3章 ソフトウェアのインストール	25
3.1 48111ソフトウェアのインス ツール	25
3.2 製品のアップデート	28
3.3 特別な配慮について	29

第4章 システムの設定と操作	30
4.1 システムの設定.....	30
 システム.....	33
 カメラ	38
 音声.....	41
 監視	43
 センサー	46
 リレー.....	47
 アラーム.....	49
 ネットワーク	54
 スケジューラ	56
 バックアップ	62
 EMap	67
 ユーザ情報	69
4.2 システムの操作.....	73
 監視を開始/中止	77
 録音を開始/中止	78

	EMap	78
	ネットワークサーバのロード/中止.....	79
	システム設定	79
	ログビューア	80
	PTZ 制御	88
	状態監視	91
第5章 WEBCAM の使い方	95	
5.1 WebCam を有効にする.....	95	
5.2 WebCam の使い方	97	
第6章 REMOTEMANAGER.....	100	
6.1 RemoteManager へのアクセス	100	
6.2  設定	103	
6.3 RemoteManager の操作.....	112	

6.3.1 	中央管理	112
6.3.2 	再生.....	115
6.3.3 	PTZ 制御	119
6.4 	録画の開始	122
6.5 	RemoteManager の終了	122
付録 A: MODEM-TO-MODEM 接続によるリモートログイン	123	
A.1 Windows 98SE / Windows Me	123	
A.2 Windows 2000.....	127	
付録 B: DDNS サーバの登録	143	

第1章 はじめに

48111 (32-bit PCI ビデオキャプチャカードを搭載) は、デジタルビデオ監視システムです。4/8/16 カメラ入力からフルカラー画像とリアルタイムビデオを同時にキャプチャすることができます。

モニタリングエリアに何らかの動きが検出されると、最新のモーション検出技術により、48111が自動的に録画を開始し、アラームを鳴らします。このように、指定したイベントが発生するとシステムが自動的に報知しますので、毎日 24 時間モニタの前に座る必要がなくなります。

1.1 表記規則

本書は次のルールにしたがって記載されています。

表記	意味	例
[]	キーボードキー	[Enter]
" "	入力する単語	"48111"
斜体	各認証レベルのユーザ	<i>管理者</i>
太字	ダイアログボックスの名前、ダイアログボックスのセクション/オプションのタイトル/フィールド名/ボタン	時間指定 バックアップ
下線	表のカラム	<u>Start</u>



注意を促すメッセージ：このようなメッセージが記載されている手順は、注意して行うようお勧めします。操作を正しく行わなければ、システムの故障の原因となり、人体や周囲に危険を及ぼす場合があります。



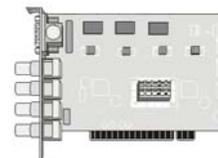
情報メッセージ：このようなメッセージは、正しく理解していただくための追加情報です。

1.2 ビデオカードの仕様

製品名	ビデオカード数	仕様
48111_4	1 台	各ビデオキャプチャカードには 4 つのビデオ入力があります
48111_8	2 台	各ビデオキャプチャカードには 4 つのビデオ入力があります
48111_16	4 台	各ビデオキャプチャカードには 4 つのビデオ入力があります

1.3 パッケージ内容

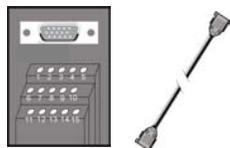
48111には次のようなアイテムが同梱されています。



- 1 / 2 / 4 48111ビデオカード

- Software CD (ドライバ、アプリケーションソフト、ユーザーマニュアルが格納されています)
48111ユーザーマニュアル

- 外付け I/O ボックスおよび 15-pin (オプション) D-type コネクタケーブル



1.4 推奨するハードウェア

CPU	Pentium® III 800MHz 以上を推奨
マザーボード	Intel 815E/815EP (PIII), 845(P4), 845D(P4), 845E(P4), 845G(P4) 互換性確認済みマザーボード <ul style="list-style-type: none"> • ASUS P4B • ASUS P4B266 • ASUS P4B533 • ASUS P4B533-V • GIGABYTE 8IRX • GIGABYTE 8IEX • GIGABYTE 8IEXP • GIGABYTE 8IGX • MSI 845E Max2 • MSI 845G Max (VIA/SiS/ALi チップセット搭載マザーボードは一時的にサポートされていません)
OS	Microsoft® Windows 2000 Pro /XP Pro
拡張スロット	1 / 2 / 3 / 4 × 32-bit PCI 2.1 準拠スロット
RAM	<ul style="list-style-type: none"> • Transcend DDR 256MB (DDR-266) • KingSton DDR 256MB (DDR-266) • KingMax SDRAM 256MB (PC-133) • KingMax DDR 256MB(DDR-333)

ハードディスク	ハードディスク上に 40GB の空き領域 (各パーティションに 6GB 以上)
HDD	<ul style="list-style-type: none"> • Seagate ST340016A (40G 7200rpm) • Seagate ST380021A (80G 7200rpm)
メディア	CD-ROM ドライブ
VGA	16-bit フルカラー-SVGA グラフィックカード (DirectDraw 機能対応) 互換性確認済み VGA カード <ul style="list-style-type: none"> • Leadtek WinFast GeForce2 MX400 • Leadtek WinFast A170 DDR TDH • Leadtek WinFast 3D S325 32MB • Leadtek WinFast A250 TD 128MB • ATI RADEON 8500 64MB/128MB • ELSA GLADIAC 525 128MB • ELSA GLADIAC 517 VIVO 64MB
オーディオ	サウンドカードおよびスピーカ
モデム	互換性確認済みモデム モデム・トゥ・モデム機能 内蔵型: <ul style="list-style-type: none"> • USR 5699A (チップセット: 3COM) • Creative Lab DI5630 (チップセット: Broadxent) • SmartLink 5634PSV-R • QDK Speedcom+ VPI56SP (チップセット: Conexant) • GVC 56K V.90 Voice/Fax (チップセット: Motorola) • CyberMarmot Rock Modem (チップセット: Ambient) • Lemel MD-56KVR4 (チップセット: Conexant) 外付け型: <ul style="list-style-type: none"> • USR 5686D (チップセット: USR) • GVC 56Kbps (チップセット: Rockwell) • Atrie Explore (チップセット: Conexant) • Zyxel Omni 56K Data/Voice (チップセット: Zyxel) • SmartLink 56TS (チップセット: TI) • SmartLink 56TPC (チップセット: IC+) • ART NET V1456VQE (チップセット: TOPIC)

モデム	<ul style="list-style-type: none">Well USB Soft Modem FM-56USB-ST (USB インタフェース) アラーム呼び出し機能 内蔵型： <ul style="list-style-type: none">Creative Lab DI5630 (チップセット：Broadxent)Creative Lab DI5630-5 (チップセット：Broadxent)
-----	--

i 最新情報については、弊社の Web サイトをご覧ください。

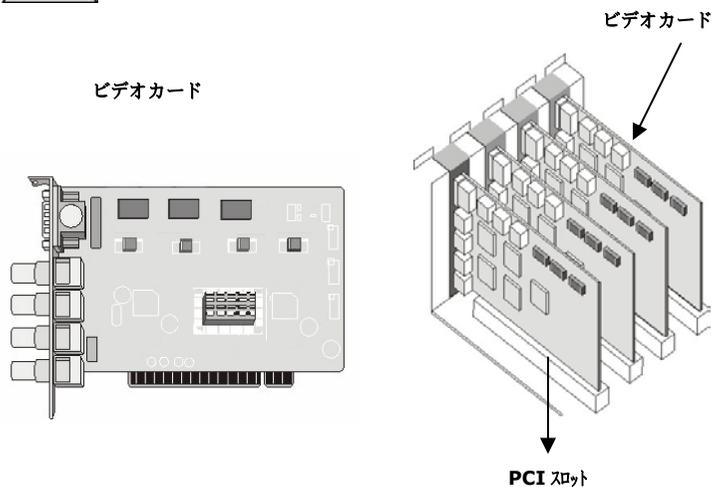
1.5 ビデオカードのインストール

1.5.1 ビデオカードのインストール

下記の方法は、48111システムにビデオカードをインストールするための手順です。

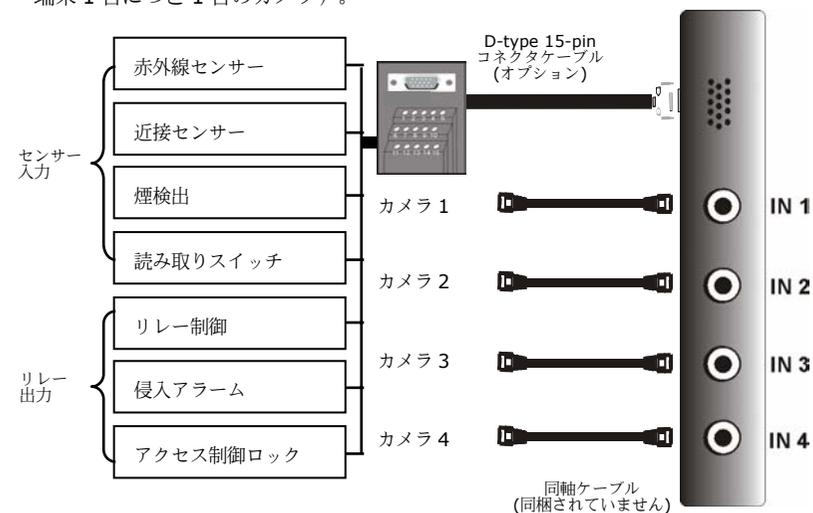


ビデオカードをインストールする前に、コンピュータの電源を切り、電源ケーブルおよびその他のケーブルを外してください。



1.6 ビデオカードの接続

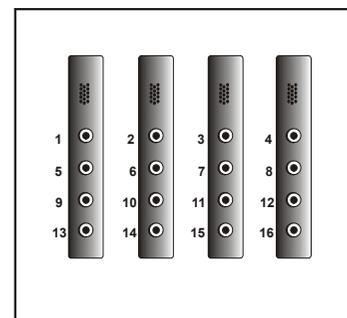
ビデオカードには最高 4 台までカメラを接続することができます（BNC 端末 1 台につき 1 台のカメラ）。



1.7 カメラの接続

カメラをサーバのビデオカード BNC コネクタに接続するときには、信号送信の問題を避けるために正しい順番で行わなければなりません。ビデオカードはシャーンに縦に積み重ねます。ビデオカードが 4 台ともインストールされている場合は、サーバの裏パネルは下の図のようになります。

48111



カメラは上図に示す順番でインストールしてください。ビデオカードの数に関わらず、手順は同じです。カメラは **48111** の場合は上列から始まり左から右へインストールします。

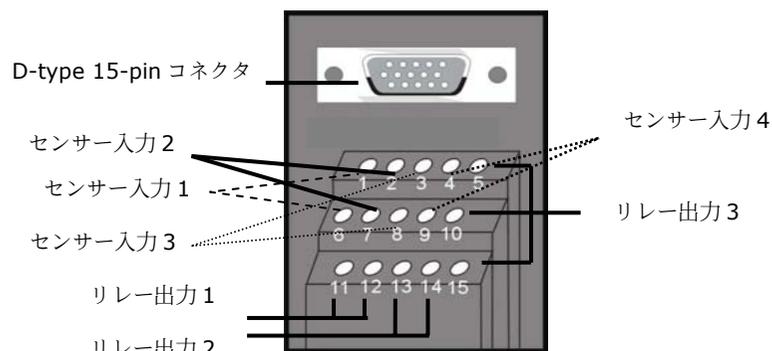
1.8 外付けセンサー/リレーの接続

各システムにはセンサー入力とリレー出力を接続するために、オプションで外付け I/O ボックスと D-type 15-pin コネクタケーブルを用意しています。外付け I/O ボックスと D-type 15-pin コネクタのピン信号と仕様は、下記の通りです。



ビデオカード

外付け I/O ボックス



外付け I/O ボックス

センサー入力仕様

Absolute Maximum Ratings

(Ta=25°C)

Parameter		Symbol	Rating	Unit
Input	Forward Current	I _F	50	mA
	Reverse Voltage	V _R	6	V
	Power Dissipation	P	70	mW

Electrical/Optical Characteristics

(Ta=25°C)

Parameter		Symbol	Min.	Typ.	Max.	Unit	Conditions
Input	Forward Voltage	V _F	—	1.2	1.4	V	I _F =20mA
	Reverse Current	I _R	—	—	10	A	V _R =4V
	Terminal Capacitance	C _t	—	30	250	pF	V=0, f=1KHz
Output	Collector Dark Current	I _{CEO}	—	—	100	nA	V _{CE} =20V
	Collector-Emitter Breakdown Voltage	BV _{CEO}	35	—	—	V	I _C =0.1mA
	Emitter-Collector Breakdown Voltage	BV _{ECO}	6	—	—	V	I _E =10 A
Transfer Characteristics	*Current Transfer Ratio	CTR	50	—	600	%	I _F =5mA, V _{CE} =5V R _{BE} =
	Collector Current	I _C	2.5	—	30	mA	I _F =20mA, I _C =1mA
	Collector-emitter Saturation Voltage	V _{CE(sat)}	—	0.1	0.2	V	DC500V, 40~60% R.H.
	Isolation Resistance	R _{ISO}	5 × 10 ¹⁰	10 ¹¹	—	—	V=0, f=1MHz
	Floating Capacitance	C _f	—	0.6	1.0	pF	V _{CE} =5V, I _C =2mA
	Cut-off Frequency	f _c	—	80	—	KHz	R _L =100 Ω, -3dB
	Response Time (Rise)	t _r	—	4	18	s	V _{CE} =2V, I _C =2mA
Response Time (Fall)	t _f	—	3	18	s	R _L =100 Ω	

*CTR= I_C / I_F 100%

リレー出力の仕様

サージの強度：1500 VAC

公式電力：200mw~360mw

操作時の消費電力：110mw~200mw

コイルのレーティング (20°C)

コイルの公式電圧(VDC)	コイルの抵抗 (Ω±10%)	ピックアップ電圧(VDC)	ドロップアウト電圧(VDC)	公式電流(mA)
5	125	3.75	0.5	40

*最大連続電圧 20°C のとき：コイルの公式電圧 110%

接触レーティング

接触配置	1 Form C (SPDT)
最大スイッチ電源	125VA 60W
最大スイッチ電圧	125VAC 30VDC
最大スイッチ電流	2A
接触抵抗	≦100m Ω
抵抗ロード	1A/125VAC 2A/30VDC
接触金属	AgNi10

外付け I/O ボックスのピン信号

ピン番号	定 義
1	入力信号 1+
2	入力信号 2+
3	入力信号 3+
4	入力信号 4+
5	出力 3 - 通常は閉じた状態
6	入力信号 1-(GND)
7	入力信号 2-(GND)
8	入力信号 3-(GND)
9	入力信号 4-(GND)
10	出力 3 - 共通
11	出力 1 - 通常は開いた状態
12	出力 1 - 共通
13	出力 2 - 通常は開いた状態
14	出力 2 - 共通
15	出力 3 - 通常は開いた状態

センサー入力

48111の外付け I/O ボックスの入力信号コネクタには、赤外線センサー、火煙検出装置、近接装置、ドアセンサーなどの外付けセンサーを取り付けることができます。これらの装置は反応すると、あらかじめ指定された処理（ビデオ録画など）を開始します。

リレー出力

48111の出力コネクタ（リレー出力）は、アラームなどの外付け出力操作装置に取り付けることができます。これらの装置は有効または無効にするようにシステムを設定することができます。ビデオカードは 3 つのリレー出力に対応しています。うち 2 つは通常オープンリレーになっており、残りの 1 つが切り換えスイッチになっています。

第2章 ドライバのインストール

48111 は Windows 98SE/Me

/2000/XP に対応するプラグアンドプレイのデジタル監視システムです。

このシステムを起動するには、まず 48111

システムと同梱されている Software CD からドライバとアプリケーションソフトをインストールする必要があります。

Windows バージョンの確認

ドライバをインストールする前に、現在 Windows 98SE, Windows Me, Windows 2000, Windows XP のうちのバージョンがインストールされているかを確認してください。これを実行するには、Window のツールバーから[スタート] --> [設定] --> [コントロール パネル]をクリックし、[システム]をダブルクリックします。Windows のバージョンは[全般]タブで確認できます。

インストールされているバージョンによって、ドライバインストール時に表示されるダイアログボックスが異なります。次のセクションでは Windows 98SE/Me, Windows 2000, Windows XP にドライバをインストールする手順を説明します。

2.1 Windows 98SE/Me 環境でのドライバのインストール

48111ビデオカードを正しくコンピュータにインストールしたら、コンピュータの電源を入れて Windows 98SE/Me を起動します。

1. 48111ビデオカードドライバを初めてインストールする場合は、**新しいハードウェアの追加ウィザード**が起動します。Software CD を挿入して[次へ]をクリックしてください。



2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックします。



3. [検索場所の指定]を選択し、[参照]ボタンをクリックして 48111

Software CD の

[driver]フォルダからドライバを検索します。次に[次へ]ボタンをクリックします。



4. 新しいハードウェアの追加ウィザードが指定したフォルダから ARGUS.inf を検出します。次に[次へ]ボタンをクリックします。



5. (Windows 98SE のみ) Windows 98SE CD-ROM を挿入してドライバのインストールを開始します。



6. [完了]ボタンをクリックするとビデオドライバのインストールが完了します。



7. 次にオーディオドライバをインストールします。[次へ]ボタンをクリックして作業を続行してください。



8. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]に選択し、[次へ]をクリックします。



9. [検索場所の指定]を選択し、[次へ]をクリックします。



10. オーディオドライバとビデオドライバは同一のもので、システムはインストールしたばかりのビデオドライバを検出します。[次へ]ボタンをクリックして作業を続行してください。



11. [完了]ボタンをクリックしてオーディオドライバのインストールを完了し、PCを再起動します。



- 48111の場合は各ビデオカード毎に 1 から 14 の手順を行ってください。
48111の場合は上記の手順を 4 回行います。



2.2 Windows 2000 環境でのドライバのインストール

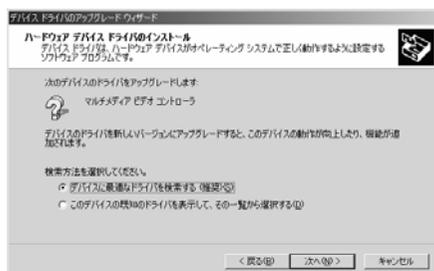
コンピュータに正しくビデオカードをインストールしたら、コンピュータの電源を入れて Windows 2000 を起動します。

1. ビデオカードを初めてインストールする場合は、**[新しいハードウェアの検索ウィザードの開始]**が起動します。48111



Software CD を挿入して、**[次へ]**ボタンをクリックします。

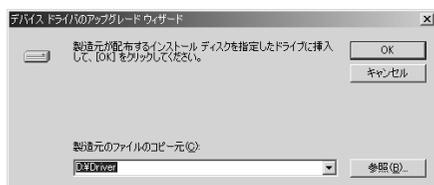
2. **[デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)]**を選択し、**[次へ]**ボタンをクリックします。



3. **[場所を指定]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。



4. ビデオカードドライバの場所を入力するか、検索するよう要求されます。正しいパスを設定して、**[OK]**ボタンをクリックします。



5. システムが指定したフォルダから argus.inf を検出します。**[次へ]**をクリックして作業を続行してください。



6. **[はい]**をクリックしてインストールを続行します。



7. 間もなくするとシステムがビデオドライバのインストールが完了したことを知らせます。**[完了]**ボタンをクリックしてください。



8. オーディオドライバをインストールします。**[次へ]**ボタンをクリックしてください。



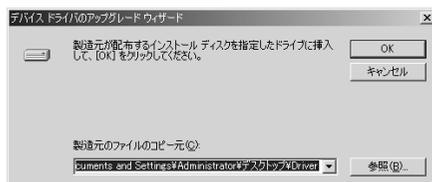
9. [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



10. [場所を指定]を選択し、[次へ]をクリックします。



11. 48111ビデオカードドライバの場所を入力するか、検索するよう要求されます。正しいパスを設定して、[OK]ボタンをクリックします。



12. オーディオドライバとビデオドライバは同一のもので、システムはインストールしたばかりのビデオドライバを検出します。[次へ]をクリックしてインストールを開始します。



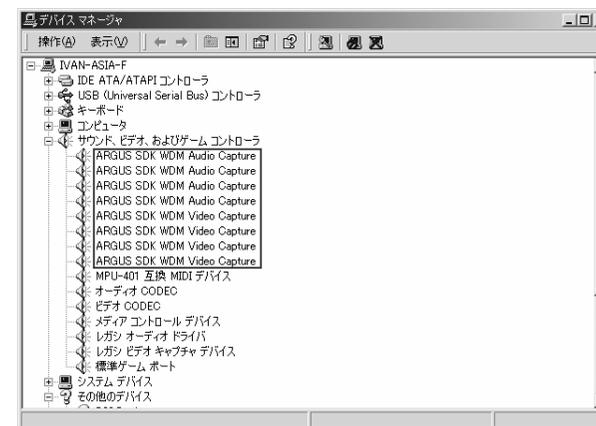
13. [はい]をクリックしてインストールを続行します。



14. [完了]ボタンをクリックしてインストールを終了し、PCを再起動してください。



1 から 14 の手順を行ってください。



2.3 Windows XP 環境でのドライバのインストール

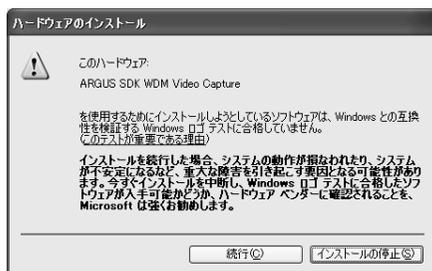
コンピュータに正しくビデオカードをインストールしたら、コンピュータの電源を入れて Windows XP を起動します。

1. ビデオカードを初めてインストールする場合は、新しいハードウェアが見つかりましたウィザードが起動します。48111

Software CD を挿入し、[ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨)] を選択します。[次へ] をクリックします。



2. システムが Software CD からドライバ argus.inf を検出し、インストールを開始します。このダイアログボックスが開いたら、[続行] ボタンをクリックします。



3. インストールが終了したら、[完了] ボタンをクリックします。



4. 続けてオーディオドライバをインストールする必要があります。[ソフトウェアを自動的にインストールする (推奨)] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



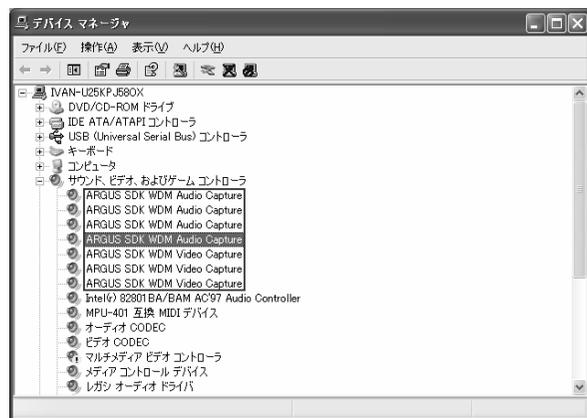
5. オーディオキャプチャはビデオキャプチャと同一ドライバを使用しますので、システムはインストールしたばかりのビデオドライバを検出します。このダイアログボックスが開いたら、[続行] ボタンをクリックします。



6. インストールが終了したら、[完了] ボタンをクリックします。



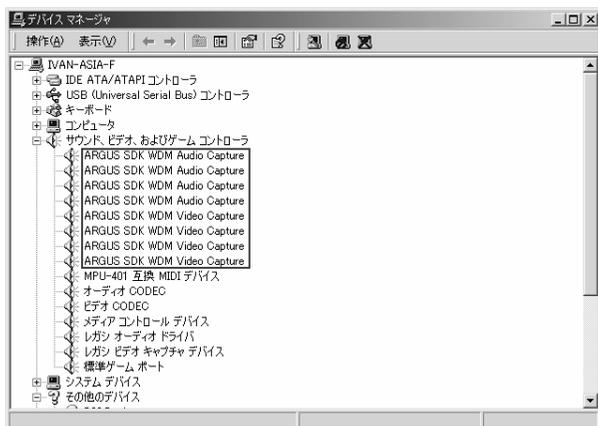
各ビデオカード毎に 1 から 14 の手順を行ってください。



2.4 ビデオカードドライバのアンインストール

ビデオカードドライバをアンインストールするには、下記の手順にしたがってください。

1. システムの**デバイスマネージャ**に入り、**サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ**をグループ解除した後、**"ARGUS WDM Audio Capture"** および**"ARGUS WDM Video Capture"**という名前のドライバをすべてアンインストールします。



2. 指定したパス内から次のファイルを削除します。
 - Windows 98/ME :
C:\WINDOWS\INF\OTHER\ DVR\ARGUS.inf
C:\WINDOWS\SYSTEM32\DRIVERS\argus.sys
 - Windows 2000 :
*C:\WINNT\INF\oemX.inf
*C:\WINNT\INF\oemX.pnf
C:\WINNT\SYSTEM32\DRIVERS\argus.sys
 - Windows XP :
*C:\WINDOWS\INF\oemX.inf
*C:\WINDOWS\INF\oemX.pnf
C:\WINDOWS\SYSTEM32\DRIVERS\argus.sys

* **"oemX.inf "**および**"oemX.pnf"**については、**"X"**の場所に番号が表示されます。各 **oemX.inf** を開き、**[製造元]**セクションに入ってください。値が **DVR** の場合は、これを削除する必要があります。削除した **oemX.inf** と同じ番号 (X) を持つ **oemX.pnf** を削除してください。例えば、**[製造元]**セクションの **oem0.inf** に DVR がある場合は、**oem0.inf** と **oem0.pnf** の両方を削除する必要があります。

3. PC を再起動してアンインストールを完了してください。

第3章 ソフトウェアのインストール

3.1 ソフトウェアのインストール

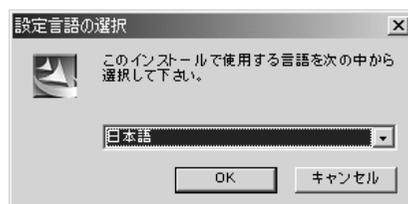
ビデオカードドライバをインストールしたら、アプリケーションソフトをインストールすることができます。48111をインストールするには、次の手順にしたがってください。

i インストール時にはユーザ名とパスワードを入力するよう要求されま
す。監視システム
に入るときにも同じユーザ名とパスワードを入力する必要がありますの
で、これらを忘れないようにしてください。

i 監視システムをインス
トールする前に、Windows プログラムをすべて終了ようお薦めしま
す。

1. 48111 Software CD を CD-ROM
ドライブに挿入し、自動起動されるまでしばらくお待ちください。

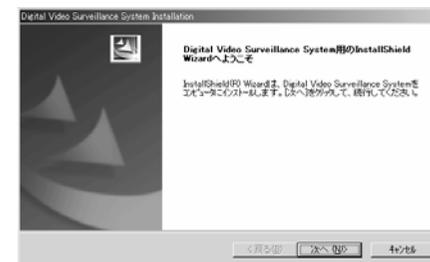
2. 48111
をクリックし、インストール
したい言語を選択します。



3. システムが
アプリケーション
ソフトをインストールする準備を開始します。



4. [次へ]ボタンをクリックして作業を続行します。



5. ユーザ名、会社名、製品番号 (CD カバーに記載されています) を入力して、[次へ]をクリックします。ここで入力するユーザ名は、ソフトウェアを操作するときシステムマネージャで使用するものと同じ名前を入力してください。



6. 48111
プロ
グラムを保管しておくフォルダ名を指定するか、リストから既存のフォルダを選択します。[次へ]ボタンをクリックします。



7. 使用する国で使用するカメラのビデオフォーマットを選択します (正しいフォーマットがわからない場合は、お近くのカメラ販売店にお問い合わせください)。
[次へ]ボタンをクリックします。



8. システムマネージャのパスワードを設定します。このパスワードは**48111**

システムに入る
ときに必要となります。
[次へ]ボタンをクリックして作業を続行します。するとソフトウェアのインストールが開始されます。

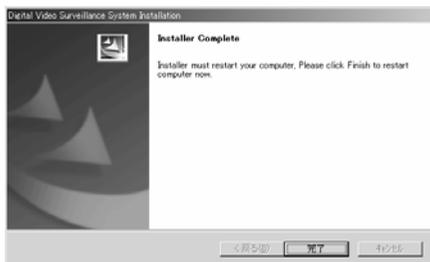


9. インストールが終了したら、**48111**
プ

ログラムのショートカットを作成することができます。その後で[次へ]ボタンをクリックしてください。



10. [完了]ボタンをクリックするとインストールが完了します。



3.2 製品のアップデート

最新のソフト（48111）は地元の代理店に連絡して下さい。下記の手順でソフトをアップグレードして下さい。

1. まずコンピュータから古いバージョンのソフトウェアをアンインストールする必要があります。[コントロールパネル]に入り、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。[デジタルビデオ監視システムのアンインストール(Uninstall Digital Video Surveillance System)]を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。後でシステムを再起動する必要があります。
2. 新しいソフトウェアに更新します。詳細は、セクション 3.1「ソフトウェアのインストール」を参照してください。システムが自動的に新しいドライバのインストールを行いますので、手動で更新する必要はありません。



更新が終了したら、任意のチャンネル番号を選択し、ビデオカードドライバを再インストールする間システムの効率性を保つために未選択のチャンネルを無効にしてください。

3.3 特別な配慮について

ハードディスクのデフラグ

どれだけ注意しても、ハードディスク上のファイルは破片化してしまいます。ハードディスクのスペースを有効に活用するために、オペレーティングシステムがファイルをハードディスク上の空いたセグメントに納まるように、ファイルを分割するときに破片化が生じます。ハードディスク上のファイルが一定レベル以上に破片化すると、システムがファイルの場所についての必要な情報すべてを維持するのが困難になります。つまり性能が著しく低下し、時間の経過にしたがい問題が大きくなります。したがって、特に録画ビデオをハードディスクに保存する前などは、Windows の[ディスクの最適化]などの専用ユーティリティを起動して、デフラグをされるようお勧めします。

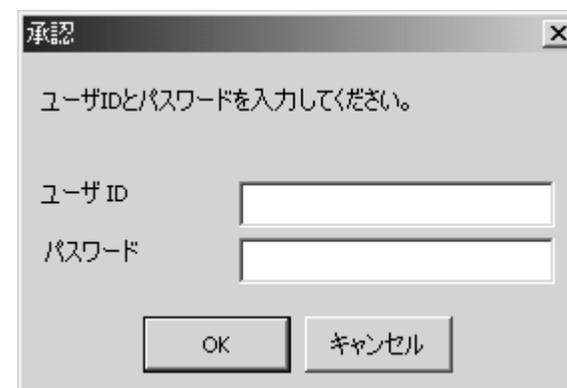
第4章 システムの設定と操作



48111システムを起動する前に、モニタの解像度を 1024 x 768、色を 16 ビットフルカラー以上に設定してください。

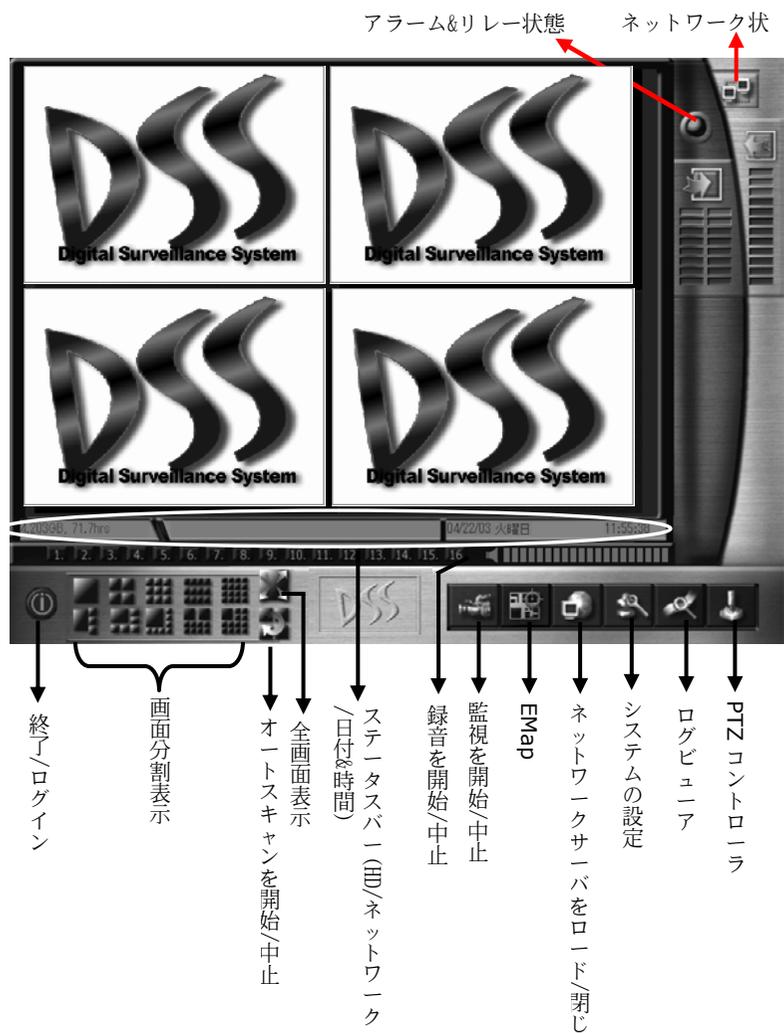
4.1 システムの設定

初めて 48111 を起動するときには、監視システムにログインするためにユーザ ID とパスワードを入力するよう要求されます。48111 をインストールするときに入力したユーザ名とパスワードを入力してください。

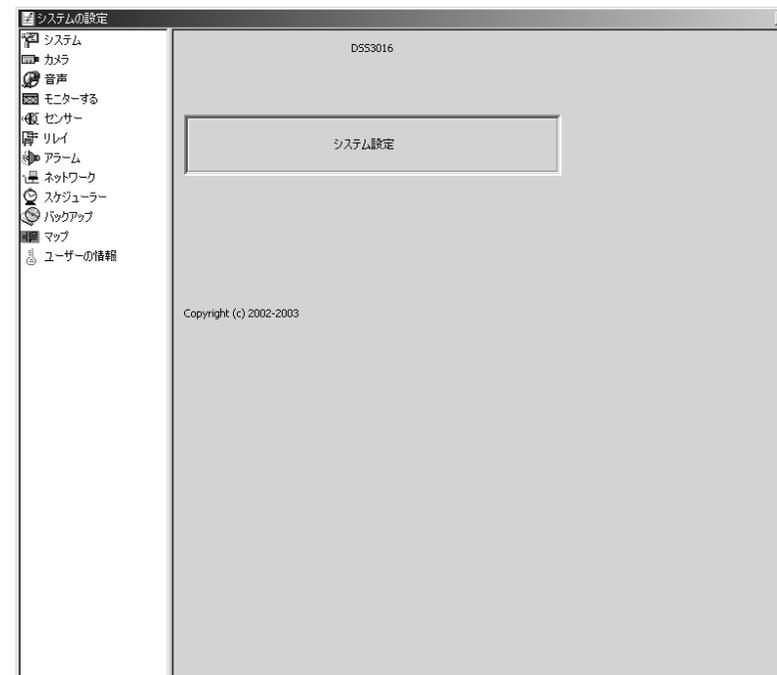


ユーザが認証されると、次のような 48111 デジタルビデオ監視システムのメイン画面が表示されます。

48111のメイン画面



[システム設定]ボタン  をクリックするとダイアログボックスが開きます。まず監視システムを使用する前に、これを設定する必要があります。



[システム設定]のページに入ると、システム、カメラ、オーディオ、モニタリング、センサー、リレー、アラーム、ネットワーク、ユーザ情報を設定することができます。

システム

[システム]をクリックすると、次のようなシステム情報のダイアログボックスが開きます。ここではモニタリングや録画操作に関する基本的な情報を入力します。



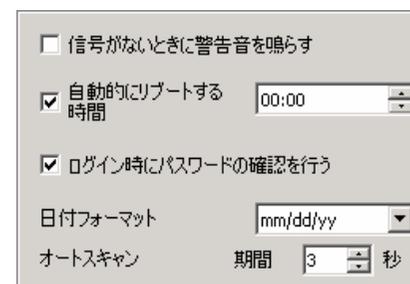
1. ディスク録画の割り当て

まずディスク録画の割り当てを行う必要があります。[...]をクリックして録画ビデオを保存するためのフォルダを探し、[追加]をクリックします。記録したデータを保存するために1枚以上のディスクが残っていれば、[削除]ボタンをクリックして録画ディスクを削除することができます。

2. 最小スペース

次にハードディスクのリサイクルのための最小スペースを指定します。ハードディスクをリサイクルするときには、新しく記録したファイルで古いファイルが上書きされます。このようにすることにより、システムは録画したビデオを常に保存できるようにハードディスクのスペースを節約することができます。ハードディスクの空き領域が指定した値以下になると、システムはハードディスクの再利用を行います。再利用が開始されるための容量は、デフォルト値の450MBよりも大きくなければなりません。

3. その他



信号がないときに警告音を鳴らす：

カメラからビデオが失われると、システムが警告を鳴らします。

自動的にリポートする時間：

システムの性能と安定性を高めるには、ユーザが定義した時間になると毎日システムがリポートするように[オートリポート]オプションを選択するようお勧めします。

ログイン時にパスワードの確認を行う：

ユーザが監視システムにログインするときにパスワードを入力するように設定します。

日付フォーマット：

mm/dd/yy, yy/mm/dd, dd/mm/yy のうちの方式で日付を表示するかを選択します。

オートスキャン：

この機能は各カメラの画像を1カメラ表示モードで番号順に表示します。

[オートスキャン]を選択するとこの機能が有効になり、スキャン間隔を 1 秒から 60 秒の間で設定することができます（デフォルト値は 3 秒）。この機能

が有効になっているときには、メインメニューに戻り  をクリックしてオートスキャン機能を開始しなければなりません。オートスキャン中は、 をクリックすると任意のカメラに移動することができます。オートスキャンを中止するには、再度  をクリックします。

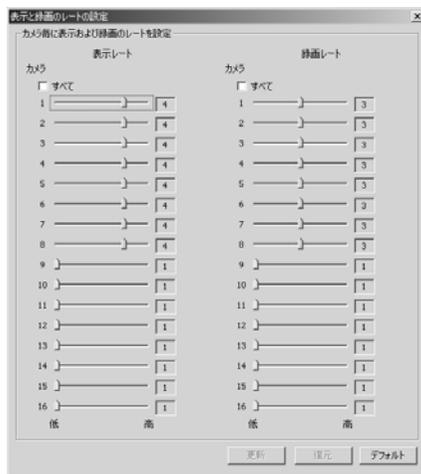
4. ビデオ規格

ビデオ規格は使用するシステムに基づいて NTSC か PAL のどちらかを選択してください。

5. 表示と録画レート

カメラ毎に表示と録画のレートを設定

このボタンをクリックすると、カメラ毎に表示と録画レートを設定することができます。このボタンをクリックすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。表示と録画レートは 5 段階に設定することができます。バーをドラッグしてカメラ毎に表示/録画レートを調整してください。



[ロック]が選択されている場合は、1 台のカメラのレートを調整するとその他のカメラのレートも同時に調整されます。同時に調整されたカメラは、ビデオキャプチャカード上の同一のビデオチップを使用します。

6. 640 x 480 解像度

解像度 640x480 のカメラを選択

特定のカメラに対して、解像度を 640 x 480 にすることができます。

このボタンをクリックするとより高い解像度に設定するためにカメラをチェックすることができます。カメラはビデオキャプチャカード上の同一ビデオチップに基づいて設定するように調整されています。

製品名	カメラセット	
48111_4	1,2,3,4	
48111_8	1,2,3,4	5,6,7,8
48111_16	1,2,3,4	5,6,7,8 9,10,11,12 13,14,15,16



 解像度を 640 x 480 に設定するカメラの数が多すぎると、システムがオーバーロードする場合があります。詳しい情報は、弊社の Web サイトをご覧ください：

7. UPS (無停電電源装置)

AC 電源が停電した場合は、管理者とユーザに警告してバッテリーが消費してしまう前にシステムをシャットダウンすることにより、セキュリティを高めます。このタスクを設定する前に UPS 装置をコンピュータに接続しておかなければなりません（詳しい手順は UPS の取り扱い説明書をお読みください）。

- A. [有効]を選択すると、UPS が正しく接続されている場合はこれを有効にし、同時に UPS の[製造元]名と[モデル]名が表示されます。
- B. コンピュータをシャットダウンするための容量値を設定します。値は 10 から 90%の範囲で指定してください。10%以下、または 90%以上に設定することはできません。



UPS アプリケーションは Window NT 以上に対応していなければなりません。Windows 2000 または Windows XP を推奨します。

8. 更新

上記の設定を変更した場合は、**更新** をクリックして設定を更新してください。

9. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

10. デフォルト

デフォルト をクリックするとすべての値がデフォルト値に設定されます。

カメラ

[カメラ] をダブルクリックして、設定したいカメラを選択します。



1. カメラ ID

左のリストから選択したカメラの番号は、**[番号]** フィールドに表示されます。

2. カード番号/ポート番号

このセクションには、このカメラが接続されているカードの番号と BNC コネクタの番号が表示されます。これはシステムが自動的に設定するため変更することはできません。

3. 有効

このカメラが監視を開始できるように**有効**にします。カメラを有効にしなければ、このカメラの画像は図 1 に示す通りになります（グレースケール）。メニュー上のこのカメラの記号は  に変更することができます。



カメラの入力が物理的にカメラに接続されていない場合は、**[有効]**を選択解除しなければ、システムが最高の性能を検出しません。

4. カメラ

表示:

このカメラからの画像を画面に表示するには、**[表示]**をチェックします。**[表示]**を選択せずに**[有効]**を選択すると、このカメラからの画像は図 2（カラー）のようになります。画面に画像は表示されませんが、このカメラは**[システム設定]**の**[監視]**セクション  で行った設定に基づいてモーションが探知されたときに録画開始、監視開始時に録画、録画しないのいずれかを実行しています。

名前:

カメラの名前を設定します。

コメント:

このフィールドにはこのカメラについてのコメントを入力することができます。ここに入力したコメントは、システム管理者が参照することができます。

画像のプロパティ

このカメラの画像に関して次のようなプロパティを設定することができます。（ 明度  コントラスト  色  彩度）

図 1

グレースケール画像



図 2

カラー画像



画像のプロパティの設定は、指定したカード（別のカメラが接続されている場合もあります）に対して設定されます。つまり、このカメラに対して行った設定は、同一カードに接続されている他のカメラにも適用されます。



画像のプロパティを調整すると、サポートされていないハードウェアに一時的にビデオフォーマットが PAL に設定されるなど、効率が損なわれる場合があります。

5. PTZ カメラ

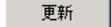
PTZ カメラの設定

- プルダウンリストから PTZ カメラのコネクタを接続する通信ポート（**COM ポート**）と、使用する **PTZ モデル**（PTZ カメラの仕様を参照してください）を選択します。次に**[保存]**をクリックして設定を行います。
- PTZ カメラをサーバのカメラで操作するには、**[PTZ カメラの ID]**を 2～225 の範囲で指定してください。

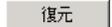
位置のプリセットを設定

- プルダウンリストから位置番号を選択し、右側の方向インターフェースで監視位置を設定します。調整しているディスプレイは上に表示されます。
- 位置の名前**を指定します。
- オートパンを行う際、**休止**ではカメラが次の位置に移動するまで静止している時間を設定します（1～60 秒）。
- 現在の位置から次の位置へ、カメラが回転する**速度**を設定することができます（5～255 度/秒）。
- [保存]**をクリックして設定を有効にします。

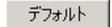
6. 更新

上記の設定を変更した場合は、 をクリックして設定を更新してください。

7. 復元

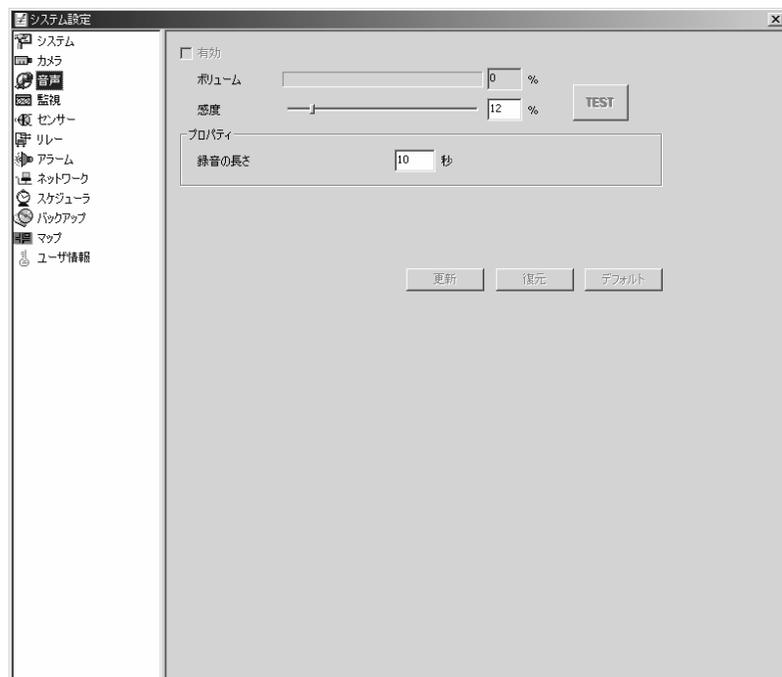
 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

8. デフォルト

 をクリックするとすべての値がデフォルト値に設定されます。



[音声]をクリックすると、下図のようなオーディオのページが開きます。



1. 有効

自動サウンド検知機能を有効にします。設定した感度より高い音が検出されると、システムは録画を開始します。この機能はシステムがビデオを録画しているときにしか使用できません。

2. 感度

TEST をクリックすると、感度を調整するときに現在の環境の音量をテストすることができます。デフォルトの感度は 30% です。

3. プロパティ

録音開始時から録音を継続する長さを指定します。デフォルト値は 5 秒です。設定した長さによって、.WAV ファイルのサイズが決定されます（1 秒の場合は最高 8K 程度になります）。.WAV ファイルのフォーマットは PCM

8KHz, 16bit, モノです。音声ファイルを再生するには、 **[ログビューア]**を選択してください。

4. 更新

上記の設定を変更した場合は、**更新** をクリックして設定を更新してください。

5. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

6. デフォルト

デフォルト をクリックするとすべての値がデフォルト値に設定されます。

監視

このセクションでは、カメラがどのように監視/録画、関連するプロパティを実行するかを設定します。 [監視]をダブルクリックして設定したいカメラを選択します。



1. モーション探知

感度:

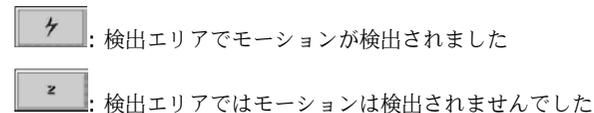
ここではモーション検知の感度を 0~100 の範囲で設定することができます（デフォルト値は 90 です）。値を高くするほど感度が高くなります。

タイムスタンプ付き録画:

録画したビデオに時間を表示することができます。[タイムスタンプ付き録画]を選択し、時間表示の色を選択します。

モーション探知時に警告音を鳴らす

モーションが探知されるとアラームを鳴らします。 をクリックするとテストを行うことができます。次の 2 つの記号は異なる状況を示しています。



: 検出エリアでモーションが検出されました

: 検出エリアではモーションは検出されませんでした

2. 録画

適切な録画モードを次の 3 つの中から選択してください。

監視開始時に録画:

監視が開始されると同時にシステムが録画を開始します。

モーションが探知されたときに録画開始:

モーションが検出されて初めて録画が開始され、モーションが止まってからも 1~120 秒間（ユーザ設定）は録画を継続します。この長さ（デフォルトは 1 秒）は、[設定された時間後に録画を中止] のセクションで設定することができます。

録画しない:

何が発生しても、システムは録画を行いません。

3. 品質

このセクションでは[コーデック]フィールドで圧縮プログラムを選択し、画質を 0~100 の範囲（デフォルトは 60）で設定することができます。値を高くするほど圧縮率が低くなり、必要とするディスク領域が大きくなります。圧縮率を調整することにより、録画ファイルのサイズを決定することができます。[高速録画]（低圧縮率）を選択すると、システムは高速で録画するためファイルサイズが大きくなります。逆に[高圧縮比]を選択すると、録画ファイルの圧縮率が高くなるためそのサイズが小さくなります。

4. モーション検出マスク

マスク

特定のエリアをマスクし、残りのエリアでモーション検出を行います。

- A. まず[有効]フィールドで[マスク]を選択してマスクエリアを編集します。

- B. [マスクを表示]を選択してマスクしたエリアも見えるようにします。
- C. マスクエリアを追加または削除するには、[追加]または[切り取り]をクリックして追加したいエリアを選択するか、またはマスクエリアからエリアを削除します。マスクエリアをすべてクリアするには、[クリア]をクリックします。[反転]をクリックするとマスクエリアとマスクしていないエリアを逆転させます。
- D. 赤、緑、青からマスクの色を選択します。

シールド

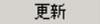
シールド機能を有効にすると、プライベートなエリア（試着室など）を監視コントロールから除外し、黒いシールドで隠します。

- A. まず[有効]フィールドで[シールド]を選択してからシールドエリアを編集します。
- B. 「マスク」のステップCを参照してください。

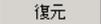
5. 編集

マスクかシールドのラジオボタンをクリックして、[モーション探知]フィールドで[追加/切り取り/反転/クリア]を選択することにより、作業エリアを指定します。

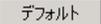
6. 更新

上記の設定を変更した場合は、 をクリックして設定を更新してください。

7. 復元

 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

8. デフォルト

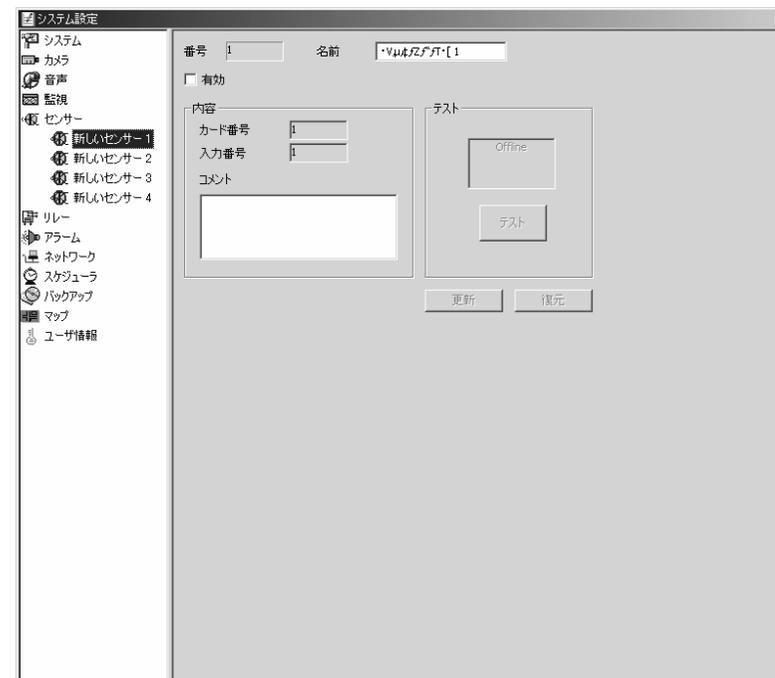
 をクリックするとすべての値がデフォルト値に設定されます。

9. 監視を開始/監視を中止

すべての設定を行った後  をクリックすると、メインの画面に戻ったときに上記の機能が有効になります。

センサー

 [センサー]をダブルクリックすると、すでに設定されているセンサーがリストされます。 [センサー]を右クリックすると、新しいセンサーを追加することができます。任意のセンサーをクリックするとそのセンサーの設定画面が表示されます。



1. センサーID

[番号]フィールドにはセンサーの番号が表示されます。また[名前]フィールドにはセンサーの名前が表示されます。

2. 内容

各カードには 1 台の外付け I/O ボックスを接続することが可能であり、各 I/O ボックスは 4 つのセンサー入力に対応していますので、センサーが接続されている場所によってカード番号と入力番号を簡単に決定することができます。このセンサーに関する情報は[コメント]フィールドに入力することができます。

できます。ここに入力したコメントは、システム管理者が参照することができます。

3. テスト

センサーをインストールした直後にセンサーをテストすることができます。

テスト をクリックして、テストエリアが赤くなったら、センサーがクローズ/オンになっていることを示しています。テストエリアが緑色になったら、センサーがオープン/オフになっていることを示しています。

4. 有効

すでに行った設定を有効にします。

5. 更新

上記の設定を変更した場合は、**更新** をクリックして設定を更新してください。

6. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

リレー

リレー をダブルクリックすると、すでに設定されているリレーがリストされます。**リレー** を右クリックすると、新しいリレーを追加することができます。任意のリレーをクリックするとそのリレーの設定画面が表示されます。

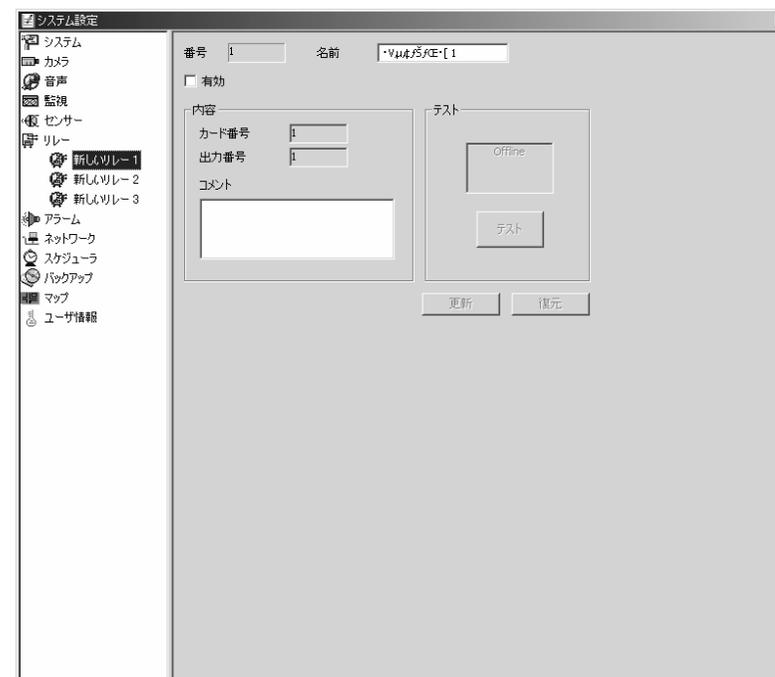
1. リレーID

[番号]フィールドにはリレーの番号が表示されます。また[名前]フィールドにはリレーの名前が表示されます。

2. 内容

各カードには1台の外付けI/Oボックスを接続することが可能であり、各ボックスは3つのリレー出力に対応していますので、リレーが接続されている場所によってカード番号と出力番号を簡単に決定することができます。

このリレーに関する情報は[コメント]フィールドに入力することができます。ここに入力したコメントは、システム管理者が参照することができます。



3. テスト

リレーをインストールした直後にリレーをテストすることができます。

テスト をクリックしてテストエリアが赤くなったら、リレーがオン/高の状態になっており出力信号を発信していることを示しています。テストエリアが緑色になったら、リレーがオフ/低の状態になっていることを示しています。

4. 有効

すでに行った設定を有効にします。

5. 更新

上記の設定を変更した場合は、**更新** をクリックして設定を更新してください。

6. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

センサーとリレーを設定したら、**[アラーム]**ページに進み指定したイベントが発生すると警報を鳴らすアラームを設定することができます。

アラーム

[アラーム]をダブルクリックすると、すでに設定されているアラームがリストされます。**[アラーム]**を右クリックすると、**最高 64 個のアラームを新しく追加することができます**。任意のアラームをクリックするとそのアラームの設定画面が表示されます。

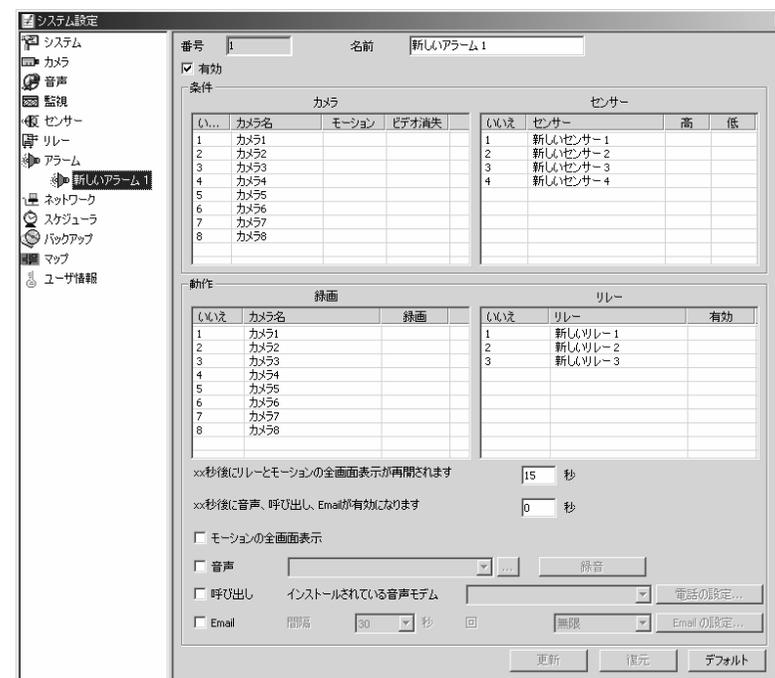
1. アラーム ID

[番号]フィールドにはアラームの番号が表示されます。また[名前]フィールドにはアラームの名前が表示されます。

2. 条件

カメラにイベントの条件を設定するには、任意のカメラの[モーション]フィールドを選択し、どのようなイベントが発生したら警報を鳴らすかを指定します。また任意のカメラの[ビデオ消失]フィールドを選択すると、信号が弱くなったり、ビデオが消失した場合を警報を鳴らすイベントとして設定することができます。

センサーについては、イベントの条件を高（クローズ/オン）または低（オープン/オフ）のいずれかに設定してください。**カメラとセンサーの両方の条件がそろって初めてアラームが鳴ります**。



3. 動作

録画&リレー出力:

録画の開始を設定するために任意のカメラの[録画]フィールドを選択し、カメラとセンサーの両方の条件が揃ったときにリレーを実行するために任意のリレーの[有効]フィールドを選択します。

リレーとモーション全画面表示の復帰:

録画が開始され、リレーが実行された後、指定した時間が経過するとモーションの全画面表示が元の状態に戻ります。

音声、呼び出し、E-Mail が有効になります:

アラームが鳴った後、システムにどのような動作をさせるかを指定することができます。

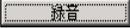
モーションの全画面表示:

監視中に動きが検出されると、その画像を指定した長さだけ表示することができます（1カメラ表示モード）。

音声アラーム:

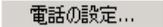
[音声]を選択すると、アラームが鳴ったときに.WAV ファイルが再生されず。再生したい.WAV ファイルを保存するパスを指定するか、 をクリックして新しく.WAV ファイルを録音してください。これを実行するには、次の手順にしたがってください。

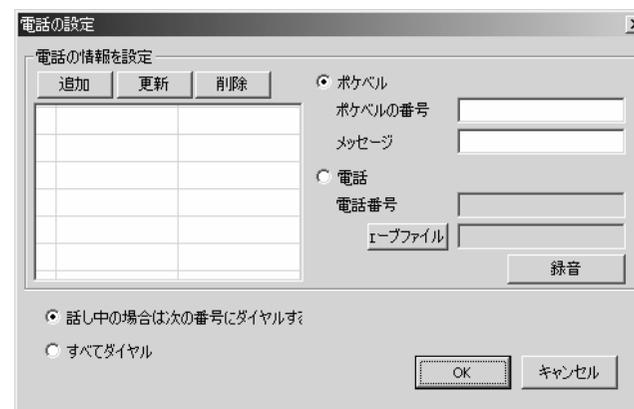


-  をクリックすると、録音ユーティリティが起動します。
-  をクリックすると、録音が始まります。
-  をクリックすると、録音が中止されます。
- 音声を.wav ファイルとして保存します。

呼び出し:

音声モデムがインストールされている場合は、アラームが鳴った場合、通常の電話/携帯電話またはポケベル（最高 5 セットまで）に呼び出しをかけて知らせるように設定することができます。次の指示にしたがって設定を行ってください。

- [呼び出し]を選択してこの機能を有効にします。
- [インストールされている音声モデム]のドロップダウンメニューから音声モデムのモデルを選択します。
-  をクリックするとダイアログボックスが開きますので、回線情報を設定してください。通常の電話/携帯電話またはポケベルの番号を設定するには、下記の手順にしたがってください。



- ポケベルまたは電話を選択します。
- ステップ a. で選択した電話/携帯電話またはポケベルの番号を入力します。ポケベルの情報を設定する場合は、[メッセージ]フィールドに数字*, #などの記号を使ってポケベルに送信するテキストメッセージを作成することができます。電話番号を設定する場合は、 をクリックして.WAV ファイルを探るか、 をクリックして新しく.WAV ファイルを作成することができます。ポケベルまたは電話の情報を設定した後は、 をクリックして設定した番号を表に追加してください。
- [話し中の場合は次の番号にダイヤルする]または[すべてダイヤル]のどちらかを選択します。ダイヤルした番号が話し中の場合は、次の番号にダイヤルします。ただし、コールが携帯電話のボイスメールに入った場合や、留守番電話が応答した場合などは、システムは呼び出しが完了したものと認識し、次の番号にはダイヤルしません。したがって、すべての番号にダイヤルし、警告メッセージを発信する後者のオプションを選択するようお勧めします。
-  /  ボタンは、ポケベルまたは電話/携帯電話の番号を更新/削除するためのボタンです。番号を更新するには、まず更新したい番号を選択し、新しい番号を入力した後で  をクリックしてください。番号を削除するには、削除したい番号を選択し、 をクリックしてください。

Email

アラームが鳴ると、警告メッセージを Email で送信することができます。次の手順にしたがって設定を行ってください。

- A. **[Email]**を選択してこの機能を有効にします。
- B. **Email の設定...** をクリックするとダイアログボックスが開きますので、Email の情報を設定してください。

各フィールドに情報を入力します。

- SMTP サーバ：メールサーバのドメイン名または IP アドレス
 - 発信元：メール発信者の Email アドレス
 - 宛先：メール受信者の Email アドレス（セミコロンを使って各アドレスを区分してください）
 - Cc：コピーを送信する Email アドレス
 - 件名：アラームメッセージの件名
 - アラームメッセージ：アラームメッセージの内容
- C. **クリア** をクリックすると、すべての入力をクリアすることができます。Email の設定を保存する場合は **OK** をクリックし、入力を保存せずにダイアログボックスを閉じる場合は **キャンセル** をクリックします。

4. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

ネットワーク

[ネットワーク]をクリックしてネットワークの設定ページに入ります。

1. 全般**サーバ IP:**

このフィールドにはリモートクライアントがアクセスするサーバの IP アドレスを入力します。または有効な IP が表示されるドロップダウンリストから選択することもできます。

イベントログ:

history.log ファイルにはリモート送信したクライアントのコンピュータの全 IP アドレスが記録されます。  をクリックすると、このファイルの保存場所を変更することができます。

リモート監視カメラ

リモート監視を行うカメラを選択します。

2. WebCam サーバを有効にする

リモート監視ができるように WebCam サーバを有効します。

ポート:

リモート転送用のポート番号を設定します (デフォルトは 80)。

リモートクライアントがログインした場合にパスワードを確認する:
リモートクライアントが WebCam サーバにログインする場合にパスワードの入力を要求します。

Web ルート

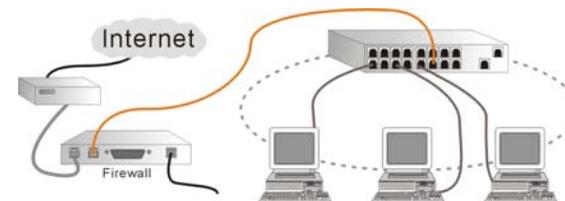
WebCam のホームページが保管されているパスを参照します。リモートクライアントが WebCam サーバにログインすると、このパスから WebCam のホームページにリンクします。

 **WebCam サーバ IIS (Internet Information Service) がインストールされているサーバでは使用できません。**

3. TCP/IP を介してリモートビューサーバ (マルチキャストサーバ) を有効にする

リモート監視している画像を TCP/IP を介して転送するには、まずこのオプションを選択して機能を有効にしてください。クライアントが TCP ポートを持つサーバに接続できるように、[ポート] フィールドにポートを指定します (デフォルトは 9090)。さらに、相互転送を行えるようにファイヤーウォール NAT 機能を設定します。

下図は接続構成を示しています。

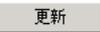
**4. ダイナミック DNS**

ダイナミックサーバが使用されている場合は、ドメイン名を登録してください。詳しくは、**付録 B** を参照してください。

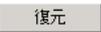
ドメイン名とパスワード:

ドメイン名を登録するときに使用したドメイン名とパスワードを入力するか、これらの情報についてネットワーク管理者に問い合わせてください。

5. 更新

上記の設定を変更した場合は、  をクリックして設定を更新してください。

6. 復元

 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

7. デフォルト

 をクリックするとすべての値がデフォルト値に設定されます。

 **スケジューラ**

 [スケジューラ] をクリックすると、スケジューラの設定ページが開きます。監視、録画、ネットワークサーバを有効にするタイミングを日付または曜日で設定することができます。すべてのスケジュールを設定したら、必要に応じて現在必要なものだけを有効にして、後の項目は無効にしておくことができます。



1. 有効

スケジュールが有効になります。スケジュールを有効にした後は、**Update** をクリックする必要があります。監視/録画/ネットワークサーバを使用するために有効にしたスケジュールは / / のように表示されます。一方、無効になっているスケジュールは / / のように表示されます。

2. スケジュール録画



スケジュールは日付または曜日で設定することができます。[日付]または

[曜日]のいずれかを選択してください。

日付:

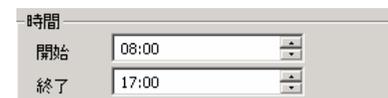
日付でスケジュールを設定する場合は、直接日付を入力するか、ドロップダウンメニューから選択し、**->** をクリックすることによって カラムに設定します。1つのタスクにつき、複数の日付を設定することができます（最高 60 日）。一度設定したスケジュールからある日にちを外したい場合は、その日付をクリックしてキーボードの Del キーか Backspace キーを押してください。

曜日:

曜日でスケジュールを設定する場合は、直接その曜日を選択します。1つのタスクにつき、複数の曜日を選択することができます。

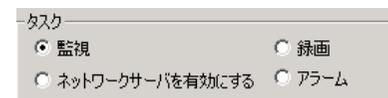
i 将来の分しかスケジュールすることはできません。過ぎてしまった日付にはスケジュールを設定することはできません。

3. 時間



タスクの開始時間と終了時間は、時、分、秒、AM/PM の順番で入力します。または上/下矢印ボタンを調整することもできます。**開始時間は終了時間よりも早くなければなりません。**つまり、日にちをまたいで時間を設定することはできません。2 日以上に亘るタスクをスケジュールするには、2 日分に分けて設定する必要があります。

4. タスク



スケジュールを設定するタスクを選択します。

監視

[監視]を選択した場合は、指定した時間になるとメインメニュー上の



ボタンが有効になります。システムは [監視]セクションで設定した録画モードに基づいて対応します。同時にカメラとセンサーに対して

 [アラーム]セクションで設定したイベントの条件も監視し、それぞれアラームを鳴らします。

録画

タスクとして[録画]を選択した場合は、指定した時間になると選択したカメラが録画を開始します。ここで設定するタスクは、各カメラに対して設定する録画モードよりも優先順位が高くなります。つまり、**モーションが探知されたときに録画を開始**するようにカメラを設定してあったり、 [監視]セクションで[録画しない]が選択されていたとしても、指定した時間になるとカメラは録画を開始します。

ネットワークサーバを有効にする

タスクとしてこのオプションが選択されている場合は、システムは  [ネットワーク]セクションで行った設定に基づいて  ネットワークサーバを読み込み、リモート監視カメラでリモート監視を開始します。

アラーム

指定した**時間**になると、[アラーム]セクションで行った設定に基づいてアラームが鳴ります。**スケジューラ**が優先されるため、[システム設定]の[アラーム]セクションでアラームが有効になっていなくても、指定した時間になるとアラームが鳴ります。

 あるタスクについて時間帯を設定するとき、以前設定した時間帯と重なる場合は、警告メッセージが表示されます。したがって、同一タスクについて異なる時間を設定する場合は、その時間が重ならないように設定する必要があります。

5. カメラ

タスクとして[録画]を選択する場合は、ここで録画カメラを選択する必要があります。

6. コメント

スケジュールのリマインダとして、ここにコメントを入力することができます。

7. 追加

このページに必要な情報をすべて入力したら、 をクリックして新しいスケジュールを表に追加してください。

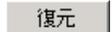
8. 削除

表から削除したいタスクを選択して、 をクリックします。

9. 更新

スケジュールを更新するには、表からスケジュールを選択し、情報を更新した後で  をクリックします。

10. 復元

 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

11. 表

この表には設定したすべてのスケジュールがリストされます。別のボタンをクリックすると、スケジュールの順番を変えることができます。

 をクリックすると、スケジュールを設定した全タスクを見ることができます。

時間スケール	カメラ	コメント
 AM 08:00:00~PM 05:00:00		
 AM 08:00:00~PM 05:00:00	1,2,3,4	
 AM 08:00:00~PM 05:00:00		

 をクリックすると、監視タスクの全スケジュールを見ることができます。

時間スケール	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
日曜日																										
月曜日																										
火曜日																										
水曜日																										
木曜日																										
金曜日																										
土曜日																										
2003/04/15(Tue)	08:00-17:00																									

 をクリックすると、各カメラの録画タスクのスケジュールを見ることができます。

時間スケール	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
日曜日																										
月曜日																										
火曜日																										
水曜日																										
木曜日																										
金曜日																										
土曜日																										
2003/04/15(Tue)	08:00-17:00																									

 をクリックすると、ネットワークサーバを有効にするタスクの全スケジュールを見ることができます。

時間スケール	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
日曜日																										
月曜日																										
火曜日																										
水曜日																										
木曜日																										
金曜日																										
土曜日																										
2003/04/15(Tue)	08:00-17:00																									

 バックアップ

 [バックアップ]をダブルクリックすると、 [手動バックアップ]と [時間指定バックアップ]の2種類のバックアップ方式から選択することができます。

 手動バックアップ

 をクリックすると、手動バックアップの設定ページが開きます。



1. 操作

ファイルをバックアップするには、3つの方法があります。

移動:

元のフォルダから[場所]フィールドで指定した別のフォルダへファイルを移動させます。

コピー:

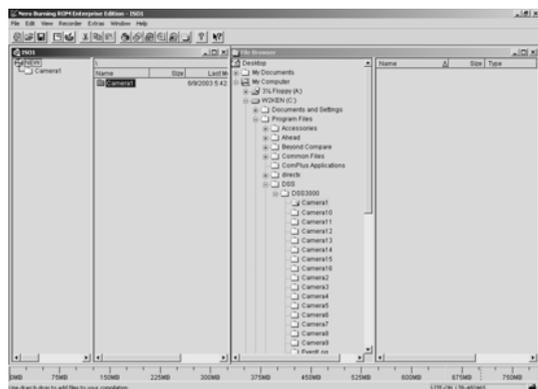
[場所]フィールドで指定したフォルダにファイルをコピーします。

すべて削除。コピーしない。:

すべてのファイルを削除し、コピーも作成しません。

2. デバイス

バックアップデバイス（CD-R またはハードディスク/ZIP）を選択します。CD-R を選択する場合は、録画ファイルを保存する各フォルダのサイズを制限するために CD-R のサイズを指定する必要があります。バックアップが完了したら、CD-R 書き込みプログラムを起動してフォルダを CD に書き込みます。



Nero Burning

3. この日付から/この日付まで

バックアップしたいファイルを指定するために、開始日時と終了日時を指定します。

4. カメラ

バックアップしたいファイルが撮影されたカメラを選択します。録音した音声ファイルをバックアップするには、[音声]を選択してください。

5. 統計

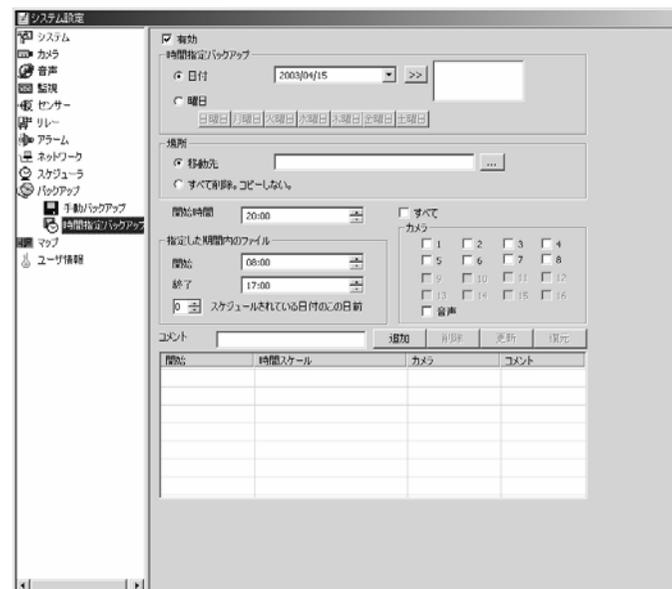
統計 をクリックすると、選択したファイルの数とそれらの合計サイズが計算されます。

6. バックアップ

今すぐバックアップ をクリックすると、手動バックアップが開始されます。

時間指定バックアップ

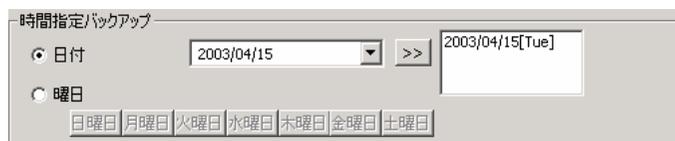
 をクリックすると、時間指定バックアップの設定ページが開きます。すべてのスケジュールを設定したら、必要に応じて現在必要なものだけを有効にして、後の項目は無効にしておくことができます。



1. 有効

バックアップのスケジュールが有効になります。スケジュールを有効にするには、**更新** をクリックする必要があります。

2. 時間指定バックアップ



バックアップのスケジュールは日付または曜日で設定することができます。[日付]または[曜日]のいずれかを選択してください。

日付:

日付でスケジュールを設定する場合は、直接日付を入力するか、ドロップダウンメニューから選択し、**->** をクリックすることによって「カラム」に追加します。**1つのスケジュールにつき、複数の日付を設定することができます (最高 60 日)**。表から日付を削除するには、削除したい日付をクリックしてキーボードの Del キーまたは Backspace キーを押してください。

曜日:

曜日で時間指定バックアップを設定する場合は、直接その曜日を選択します。バックアップを行うために複数の曜日を選択することもできます。

3. 場所

[移動先]を選択した場合は、ここでバックアップファイルを移動させるフォルダを指定する必要があります。[すべて削除。コピーを作成しない]を選択すると、すべてのファイルが削除され、コピーも作成されません。

4. 開始時間

バックアップスケジュールの開始時間を設定します。

5. 指定した期間内のファイル

開始と終了:

指定した**開始時間**と**終了時間**の間で選択したカメラが撮影したファイルを検索します。時間は上/下ボタンを使って、時と AM/PM で設定してください。**開始時間を終了時間よりも遅く設定することはできませんので注意してください**。つまり、日にちをまたいで時間を設定することはできません。

ん。2 日以上に亘るファイルをバックアップするには、バックアップスケジュールを分ける必要があります。

スケジュールされている日付のこの日前:

また[時間指定バックアップ]セクションでスケジュールした日付よりも何日か前(ユーザ指定)に、ファイルをバックアップすることもできます。たとえば、2001/08/03 と 2001/08/06 にバックアップ日を指定したとき、スケジュールされている日の 2 日前にバックアップするように設定したとすると、2001/08/01 と 2001/08/04 にファイルがバックアップされます。ですから、指定した日の通りにバックアップを行いたい場合は、この項目は 0 に設定してください。

6. カメラ

バックアップしたいファイルを撮影したカメラを選択します。[音声]を選択すると選択したカメラから録音した音声ファイルをバックアップすることができます。

7. コメント

スケジュールのリマインダとして参照できるコメントを入力することができます。

8. 追加

このページで必要な情報を入力したら、**追加** をクリックして特定のタスクを実行するための新しいスケジュールを表に追加します。指定したスケジュールはすべて次の表に表示されます。

9. 削除

表から削除したいスケジュールを選択して、**削除** をクリックします。

10. 更新

スケジュールを更新するには、表からスケジュールを選択し、情報を更新した後で **更新** をクリックします。

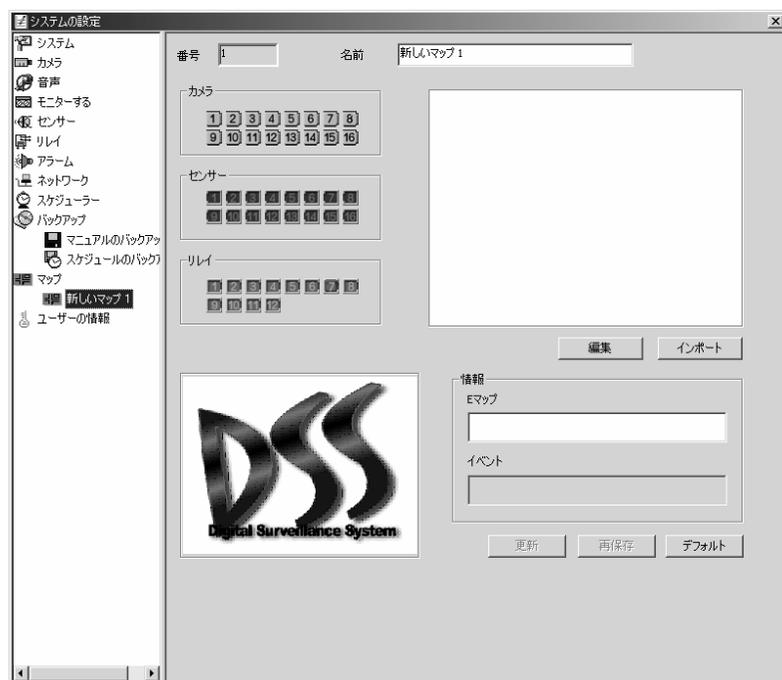
11. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

EMap

すべてのカメラ、センサー、リレーが設定された、完全な構成マップが表示されます。

[EMap]をダブルクリックすると、すでに設定されている Emap がリストされます。**[EMap]**を右クリックすると、新しい **EMap** を追加することができます。任意の EMap をクリックするとその EMap の設定画面が表示されます。



1. Emap の名前を指定します。

2. Emap を設定

インポート:

マップの画像 (bmp/jpg 形式がサポートされています) がある場合は、[インポート]ボタンをクリックすると右側の画面に表示される画像をインポートすることができます。

編集

マップの画像がない場合、あるいは画像を修正する必要がある場合は、**[編集]**ボタンをクリックすると bmp か jpg に対応した画像編集プログラムが起動します。

3. カメラ、センサー、リレーの調整

新しくイベントを追加するには、左側のフィールドからカメラ、センサー、リレーのボタンをドラッグし、マップ内の任意の位置にドロップします。選択したボタンは無効になります。削除するには、マップの外側へドラッグしてください。クリックしたカメラの監視状況は左ボタンフィールドに表示されます。

4. 情報

操作中に参考にできるように、各イベントの情報を入力することができます。各編集ボックスには最高 32 文字(英文字)まで入力することができます。

5. 更新

上記の設定を変更した場合は、**更新** をクリックして設定を更新してください。

6. 復元

復元 をクリックすると、これまでに行った変更内容をすべて破棄し、最後の設定に戻します。

7. デフォルト

デフォルト をクリックするとすべての値がデフォルト値に設定されます。

 ユーザ情報

 をクリックすると、ユーザ情報の設定ページが開きます。



1. 新しいユーザを追加

新しいユーザを追加するには、**ユーザ ID**、**名前**、**コメント**、**パスワード**、**パスワードの確認**、**認証レベル**（システムマネージャ、管理者、オペレータ、ユーザ）を設定する必要があります。次に、このユーザがリモートから見ることできるカメラを選択して、**追加** をクリックします。

2. リモート可視カメラセクション

カメラを選択し、追加しようとしているユーザが音声ファイルにリモートアクセス可能かどうかを指定する必要があります。音声も含めてすべて選択する場合は、**[すべてのカメラ]**を選択してください。

3. 削除

ユーザを削除するには、ユーザを選択して**[削除]**をクリックします。

4. 更新

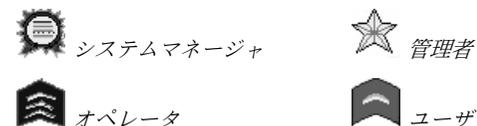
ユーザを選択し、最新の情報を入力した後で**[更新]**をクリックすると、ユーザ情報が更新されます。

5. 復元

ユーザ情報を修正しているときに**[復元]**ボタンをクリックすると、これまでに修正した内容が最後の設定に戻されます。

6. 認証レベル

監視システムは次の 4 種類の認証レベルを使って、パスワードによりユーザを区別します。



ログイン/ログアウト、監視を開始/中止、ネットワークサーバをロード/中止するときには、ユーザの認証レベルを識別するために ID およびパスワードを入力する必要があります。下図に示す表は、各レベルのユーザが各機能にアクセスする際の権利を説明したものです。

	 システムマネージャ	 管理者	 オペレータ	 ユーザ
機能 / 設定				
 監視を開始/中止	V	V	V	
 録音を開始/中止	V	V		
 ネットワークサーバのロード/中止	V	V	V	

 システム設定	V	V		
 システム	V	V		
 カメラ	V	V		
 音声	V	V		
 監視	V	V		
 センサー	V	V		
 リレー	V	V		
 アラーム	V	V		
 ネットワーク	V	V		
 スケジューラ	V	V		
 バックアップ	V	V		
 EMap	V	V	V	V
 ユーザ情報	V			
 ログビューア	V	V		
 PTZ 制御	V	V	V	
 1 カメラ表示	V	V	V	V
 2 カメラ表示	V	V	V	V
 4 カメラ表示	V	V	V	V

 9 カメラ表示	V	V	V	V
 12 カメラ表示	V	V	V	V
 16 カメラ表示	V	V	V	V
 1 カメラ拡大表示	V	V	V	V
 6 カメラ表示	V	V	V	V
 8 カメラ表示	V	V	V	V
 10 カメラ表示	V	V	V	V
 13 カメラ表示	V	V	V	V
 全画面表示	V	V	V	V
 オートスキャン 開始/中止	V	V	V	V
 1. 2. 3. ... 16. フォーカスカメラ	V	V	V	V

システムマネージャはすべての機能を操作したり、システムの設定を行ったりすることができます。管理者は[システム設定]の  [ユーザ情報]セクション以外は、システムマネージャと同等の権利を持っています。オペレータは[システムの設定]に入る権利は全くありません。ユーザは監視画面を見ることしかできません。

4.2 システムの操作

このセクションでは、監視システムを操作する方法を説明します。

製品モデル



48111_4

48111_4では、 1カメラ表示、 1カメラ拡大表示、 4カメラ表示、 全画面表示、 オートスキャンの開始/中止が可能です。



48111_8

48111_8では、 1カメラ表示、 1カメラ拡大表示、 4カメラ表示、 6カメラ表示、 8カメラ表示、 9カメラ表示、 全画面表示、 オートスキャンの開始/中止が可能です。



48111_16

48111_16では、 1カメラ表示、 1カメラ拡大表示、 4カメラ表示、 6カメラ表示、 8カメラ表示、 9カメラ表示、 10カメラ表示、 12カメラ表示、 13カメラ表示、 16カメラ表示、 全画面表示、 オートスキャンの開始/中止が可能です。

表示モード

各表示モードは下の点線内に表示されています。点線内の番号はカメラの番号を意味します。



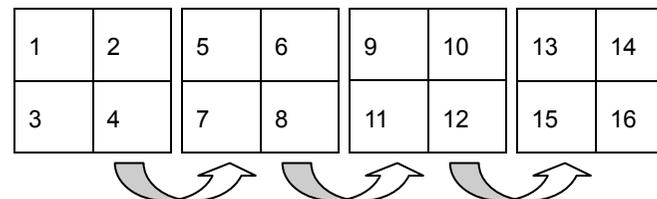
1 カメラ表示

1台のカメラが撮影した画像を見たい場合は、このボタンをクリックします。複数のカメラがインストールされている場合は、 番号(フォーカスカメラ)をクリックするとその番号のカメラに切り換えることができます。



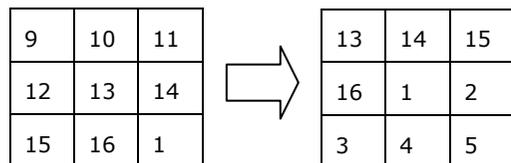
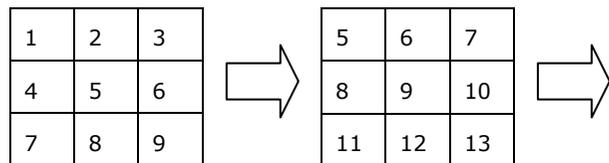
4 カメラ表示

画面を4カメラ表示に分割します。画面にはまずカメラ1~4が表示されます。再度クリックすると、カメラ5~8に切り換わります。さらにクリックすると9~12、13~16、1~4の順番で画面が切り換わります。次のシーケンスをご覧ください。



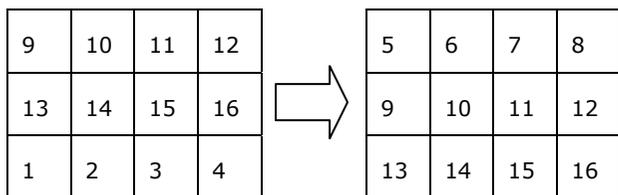
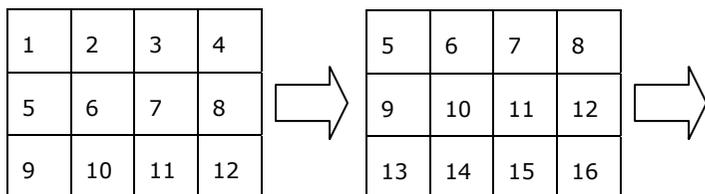
9 カメラ表示

画面を9カメラ表示に分割します。画面にはまずカメラ1~9が表示されます。再度クリックすると、カメラ5~13に切り換わります。さらにクリックすると9~1、13~5、1~9の順番で画面が切り換わります。次のシーケンスをご覧ください。



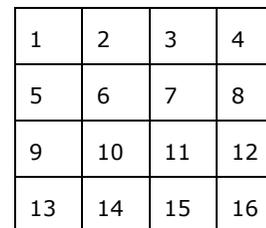
12 カメラ表示

画面を 12 カメラ表示に分割します。画面にはまずカメラ 1~12 が表示されます。再度クリックすると、カメラ 5~16 に切り換わります。さらにクリックすると 9~4、13~8、1~12 の順番で画面が切り換わります。次のシーケンスをご覧ください。



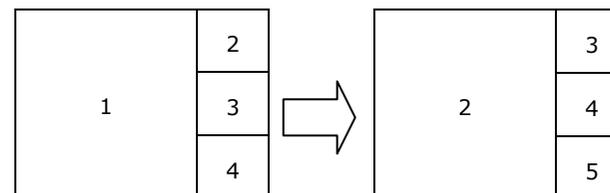
16 カメラ表示

画面を 16 カメラ表示に分割します。



1 カメラ拡大表示

画面を 1 カメラ拡大表示に分割します。さらにクリックすると、拡大した画像から次のカメラに切り換わります。



6/8/10/13 カメラ表示

画面を 6/8/10/13 カメラ表示に分割します。さらにクリックすると、拡大した画像から次のカメラに切り換わります。

全画面表示

すべての表示モードから全画面表示に切り換わります。



オートスキャン開始/中止

この機能は各カメラの画像を 1 カメラ表示モードで番号順に表示します。この機能を有効にするには、[システム設定]の [システム]セクションに入り、[オートスキャン]を選択してスキャン間隔を指定する必要があります。この機能を有効にしたら、メインメニューに戻り、このボタンをクリックするとオートスキャンを開始/中止することができます。オートスキャン中に [フォーカスカメラ]をクリックすると、任意のカメラに移動することができます。

フォーカスカメラ

各ボタンに表示されている番号は、カメラの番号を意味しています。これらのボタンは各カメラの状態（ 有効/ 無効）を示しています。すべての表示モードにおいて、カメラ番号をどれでもクリックすると表示がそのカメラに切り換わります。



監視を開始/中止



をクリックすると、監視が開始/中止されます。カメラからビデオを録画しているときには、画像フレームの左上隅に赤い三角形が表示されます。モーションが検出されたときにこのカメラの画像を録画するように設定してある場合は、 をクリックして監視が開始されると、緑色と赤の三角形が表示されます。

監視中は、[システム設定]の [アラーム]セクションで設定した条件にしたがって、カメラとセンサーの両方が同時に監視されます。カメラとセンサーの両方の条件が一致すると、アラームが鳴ります。



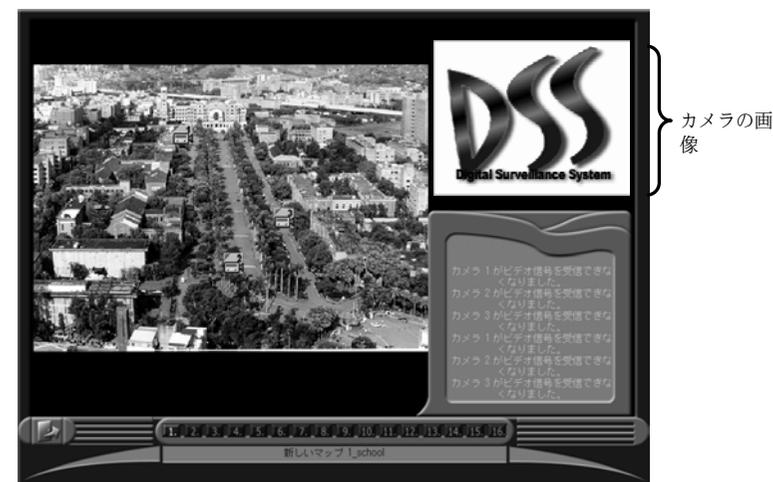
録音を開始/中止

録音が始動/中止されます。ここには現在の環境の音量が表示されます。[システム設定]の [音声]セクションで行った設定に基づいて、検出された音量が指定した感度を超えると、指定された時間に亘って録音が行われます。録音されたファイルは指定したパスに WAV 形式で保存されます。自動音声検出機能はシステムがカメラの画像を録画しているときにしか作動しません。



EMap

[システム設定]の [EMap]セクションで設定を行った後、このボタンをクリックすると Emap を見ることができます。



1. マップボタン をクリックすると、マップを見ることができます。
2. マップ上でカメラ、センサー、リレーを確認します。マップ上のイベントボタンをクリックして、そのイベントに注目します。

3. カメラ、センサー、リレーを監視します。

あるイベントに注目しているときには、関連する情報が[情報]フィールドに表示されます。注目しているイベントがない場合は、右上のウィンドウでカメラの状態を監視することができます。マップウィンドウ上にある各色のアイコンは、次の表の通り状態によって異なる色で点滅します。

アイコン	色	状態	アイコン	色	状態
 カメラ	黄	標準	 センサー	黄	標準
 カメラ	青	ビデオ消失	 センサー	赤	有効
 カメラ	緑	モーション探知	 リレー	黄	標準
			 リレー	赤	有効

4. [終了]をクリックするとメインメニューに戻ります。



ネットワークサーバのロード/中止

リモート監視 (Web Cam/RemoteManager) を行うためのネットワークサーバをロード/中止します。実際にネットワークサーバをロード/中止させるには、ユーザの認証レベルを確認するためにパスワードを入力する必要があります。ネットワークの設定は、[システム設定]の  [ネットワーク]セクションで行います。



システム設定

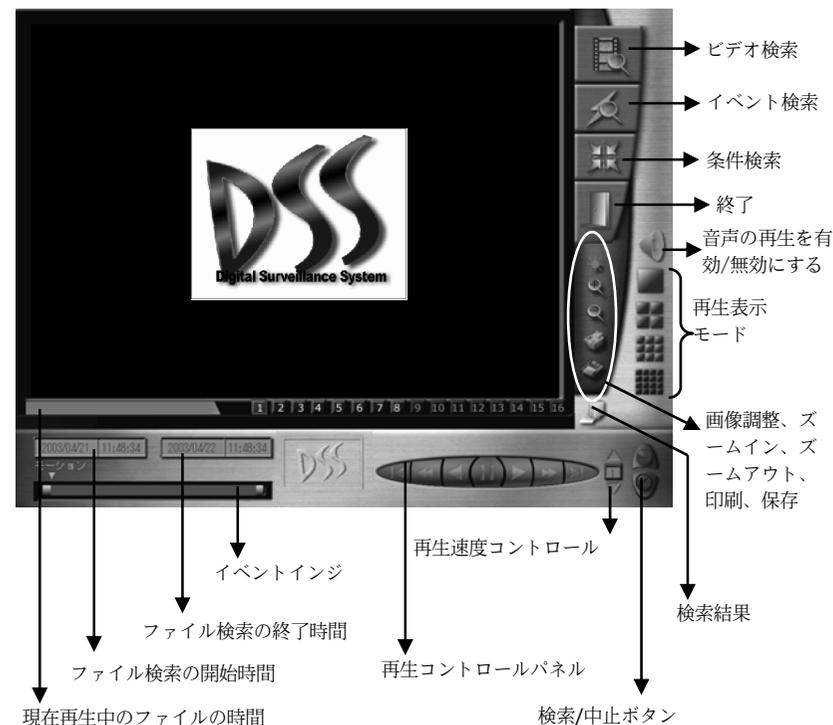
詳細は、セクション 4.1「システム設定」を参照してください。



ログビューア

ログビューアは 1 本のチャンネル、あるいは 4/9/16 チャンネルから同時にログファイルを再生するための機能です。ここではすべての機能を操作順にしたがって説明します。

このボタンをクリックすると、次のログビューアに入ります。



1. 表示モードの選択

このページでは  (1 チャンネル)、 (4 チャンネル)、 (9 チャンネル)、 (16 チャンネル) をクリックして表示モードを選択します。再生中にこれらのボタンをクリックすると、表示モードを切り換えることができます。ある特定のカメラに切り換えるには、   ...  をクリックしてください。

2. 音声の再生

音声ファイルも再生したい場合は、 をクリックしてください。

3. 再生するファイルの選択

再生したいファイルを選択します。



A. 時間の選択

 をクリックして、それぞれ開始時間（左）と終了時間（右）の日時を選択します。指定した時間内にモーションが検出されると（デフォルトのイベント）、下のイベントインジケータに直ちにビデオデータが表示されます。

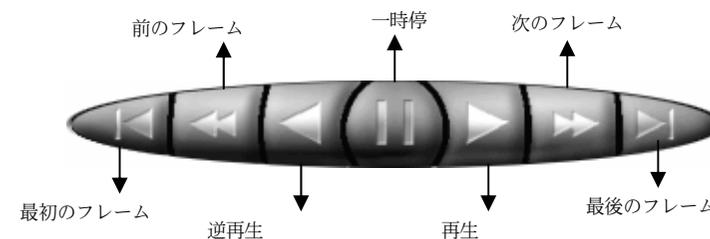
B. 再生

 [再生] をクリックすると、最初から最後までファイルが再生されます。またはスライダーをドラッグして見たいフレームに直接移動し、 [再生] をクリックします。イベントインジケータの線は、指定したイベントが実行された時間を示しています。



4. 再生コントロール

ビデオの再生が開始されたら、次の機能ボタンを使用することができます。



5. 再生速度の調整

再生速度を調整するには、 から上矢印ボタンと下矢印ボタンを使用します。標準速度の 8, 4, 2, 1, 1/2, 1/4, 1/8 倍の中から選択できます。

6. 画質

 をクリックして画質を調整します。明度、コントラスト、色、彩度を調整することができます。

7. 拡大/縮小

 /  をクリックすると画像が拡大/縮小します。

8. 印刷と保存

再生中に  [印刷] または  [保存] をクリックすると、現在表示中の画像が印刷/保存されます。

bmp 形式で保存された画像は、コピーや破壊から保護されます。
[プログラム] - [Image Verify] を選択して、保存した画像を確認してください。





ビデオ検索

録画したファイルは年/月/日/時/分/秒の順番で、エクスプローラ式のツリー構造の中から探し出すことができます。

この機能を有効にするには、次の手順にしたがってください。

- A. **[ビデオ検索]**をクリックすると、次のようなウィンドウのビデオ検索リストが表示されます。



- B. **1 2 ... 16** カメラ番号ボタンをクリックして、検索中でも切り換えが可能なカメラを選択します。
- C. ビデオ表から録画ファイルを選択し、**[閉じる]**をクリックしてウィンドウを隠します。
- D. ビデオ表を閉じたら、ウィンドウの左下に選択したファイルの開始時間と終了時間、および状態が表示されます。
- E. **[再生]**ボタンをクリックすると録画ファイルが表示されます。再生中はイベントインジケータによって再生状況が示され、ファイルの開始時間のフィールドに再生時間が表示されます。

- F. **[検索結果]**をクリックすると、前のビデオ表検索リストが表示されます。録画ファイルをレビューするには、上記の手順にしたがってください。



このセクションにおけるイベントインジケータの検索ピークは、ファイルの位置ではなく録画開始の時間を示しています。したがって、**[イベントインジケータ]**フィールドで表示されているピークを直接クリックすると、通常は1個のピーク（すべてではありません）が表示されるはずですが。



イベント検索

録画ファイルを指定した時間範囲内から、アラーム条件やアクションによって検索します。

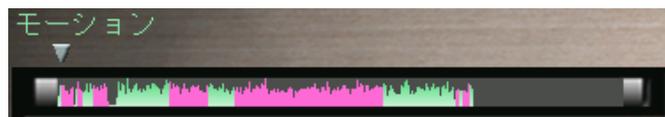
この機能を使用するには、次の手順にしたがってください。

- A. **[イベント検索]**をクリックすると、再生コントロールパネルが次のような条件検索パネルに変わります。



- B. カメラの表示モード  (1, 4, 9, 16 チャンネル) を再生表示モードから選択します。
- C. ウィンドウの左下にある[時間]フィールドで、検索対象となる開始時間と終了時間を設定します。
- D. 条件検索パネルからファイルを検索するために、検索条件を選択します (モーション検出、ビデオ信号の消失、センサー入力、リレー出力、音声、システム呼び出し、アラーム録画)。
- E. [検索結果]をクリックすると検索が開始され、**イベント表**検索リストに検索された録画ファイルが表示されます。
- F. 必要であれば[検索を中止]をクリックすると、検索作業を中止することができます。
- G. 任意の録画ファイルを選択し、[OK]をクリックすると**イベント表**が閉じられます。同時にファイルの状態はイベントインジケータと再生コントロールパネルに表示されます。このとき、条件検索パネルは閉じられます。
- H.  [再生]コントロールパネルで[再生]ボタンをクリックするか、イベントインジケータ上のインジケータを使ってファイルを見ることもできます。再生中はイベントインジケータによって再生状況が示され、ファイルの開始時間のフィールドに表示時間が表示されます。
- I. [検索結果]をクリックすると、前の**イベント表**検索リストが表示されます。録画ファイルをレビューするには、上記の手順にしたがってください。

 [イベントのインジケータ]フィールドに表示される検索したピーク (赤紫色) は、録画ファイルを示しています。これらのファイルはクリックすると再生することができます。一方、別の色のもう 1 つのピークは、選択したイベントにより作成されたファイルを示しています。これらのファイルはクリックしても見ることはできません。



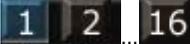
条件検索

指定した期間内に録画されたファイルを**マスクエリア**や**検索間隔**を使って検索します。

この機能を使用するには、次の手順にしたがってください。

- A. [条件検索]をクリックすると、次のような再生コントロールパネルが検索条件設定パネルに代って表示されます。



- B.  [カメラ番号]ボタンをクリックして、検索中に切り換えることができるカメラを選択します。
- C. 検索対象となる開始時間と終了時間を設定します。
- D. [検索間隔]の時間を指定します。
- E. [マスクエリア]と[カラーボックス]ツールを使ってマスクエリアドラッグし、検出エリアを指定します。
- F. [検索結果]をクリックすると検索が開始され、**条件検索表**に検索された録画ファイルが表示されます。

- G. 任意の録画ファイルを選択し、[OK]をクリックすると**条件検索表**が閉じられます。同時にファイルの状態はイベントインジケータと再生コントロールパネルに表示されます。このとき、検索条件設定パネルは閉じられません。
- H. 再生コントロールパネルで  [再生] ボタンをクリックするか、イベントインジケータ上のインジケータを使ってファイルを見ることもできます。再生中はイベントインジケータによって再生状況が示され、ファイルの開始時間のフィールドに表示時間が表示されます。
- I. [検索結果] をクリックすると、前の**条件検索表**が表示されます。録画ファイルをレビューするには、上記の手順にしたがってください。

9. 終了

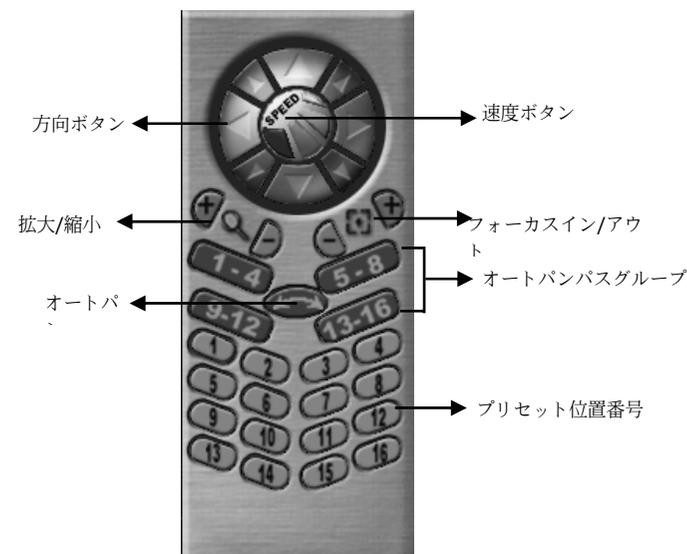


[終了] ボタンをクリックするとログビューアを終了します。



PTZ 制御

このボタンをクリックすると、PTZ カメラを操作するためのインターフェースが表示されます。再びボタンをクリックすると、インターフェースが閉じられます。

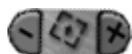


1. PTZ 制御



方向と速度

外側の円にあるボタンをクリックすると、監視中にカメラの方向を調整することができます。内側の円には PTZ の回転速度を 4 段階に調整するためのボタンがあります。速度を変更するには、これらのボタンをクリックしてください。



フォーカス

監視中に+ボタンや-ボタンをクリックすると、焦点距離を調整して画像をより鮮明に見ることができます。



拡大/縮小

監視中に+ボタンや-ボタンをクリックすると、被写体を拡大/縮小することができます。



プリセット位置番号

監視中に 1～16 までのボタンをクリックすると、カメラを任意の位置に調整することができます。



オートパンのパスグループ

これらのボタンはオートパンのパスを選択するときに使用します。たとえば、**5-8** をクリックして  [オートパン] ボタンをクリックすると、プリセット位置 5-->6, 6-->7, 7-->8, 8-->5, 5-->6 のように、再び  をクリックするまでスキャンが続行されます。



オートパン

まずオートパンのパスグループを選択してから、このボタンをクリックしてオートパンを実行する必要があります。  [オートパン] ボタンをクリックする前にパスを選択しておかなければ、警告メッセージが表示されます。

PTZ カメラはプリセット位置の設定に基づいてオートパンを行います。たとえば、**1-4** が選択されている場合は、プリセット位置 1 と 2 の[休止/足度]は 3 秒/1 秒あたり 30°、6 秒/1 秒あたり 90° になります。

したがって、  [オートパン] ボタンをクリックすると、まずカメラが 30° /秒の速度で現在の位置から 1 の位置に移動し 3 秒間静止します。次に 1 の位置から 2 の位置に 90° /秒の速度で移動し 6 秒間静止します。このようにして (2-->3, 3-->4, 4-->1, 1-->2,)、カメラは連続的に回転します。



PTZ カメラによってオートパンを実行する方法が異なるため、上記の方法とは若干異なる場合があります。詳しくは、PTZ カメラの取り扱い説明書をお読みください。

2. PTZ 制御の終了



 をクリックするだけで PTZ 制御のインターフェースを閉じることができます。

状態監視

アラーム/リレー/センサーの状態

メインの監視ウィンドウの右側にはアラーム、リレー、センサーの状態を示すパネルがあります。インストールされているセンサーは明るい色で表示され、インストールされていないセンサーは暗い色で表示されます。センサーが有効になると、黄色に変わります。リレーについても、インストールされているものは明るい色で表示され、有効になると黄色に変わります。



アラームが鳴ると、 が赤くなります。このボタンをダブルクリックすると、次のようなダイアログボックスが開きます。



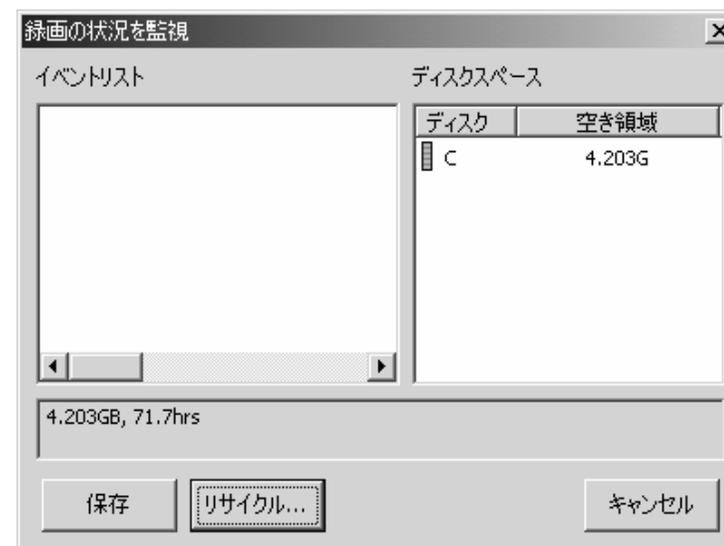
カメラ/センサー番号の横にある赤い点は、特定のカメラ/センサーに発生したイベント条件を示しています。緑色の点はイベントがなにも発生していないことを意味しています。また青い点はビデオ信号が弱すぎるか、ビデオケーブルが外れていることを意味しています（ビデオ信号の消失）。下のリストには時間を追ってすべてのイベントが表示されます。

カメラの録画、サイレン、その他のリレー出力を含め、作動したアラームをクリアするには、[リセット]ボタンをクリックしてください。ただし、これを実行するには認証レベルを確認するためにパスワードを入力しなければなりません。[保存]ボタンをクリックすると、すべてのアラーム記録が保存されます。[閉じる]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じてください。

3.677GB, 62.8hrs

ハードディスクの状態

ハードディスクの残量とビデオ録画が可能な時間（時）が表示されます。このエリアをダブルクリックすると、録画に関する全イベントとディスクスペースがリストされたダイアログボックスが開きます。



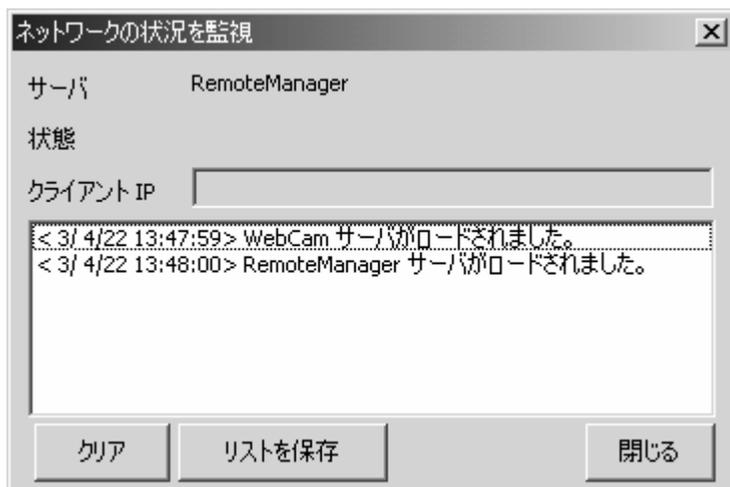
[保存]ボタンをクリックすると、イベントが保存されます。[リサイクル]ボタンをクリックすると、ハードディスクがリサイクルを実行する必要があるかどうかをシステムがチェックします。終了するには[キャンセル]をクリックしてください。

18:00:58 RemoteManager server closed. ネットワークの状態

現在のネットワークの状態が表示されます。またメインの監視ウィンドウの右上



隅にある  をクリックすると、ネットワークに関連するイベントが表示されたリストが開きます。



データ転送中は  が茶色に点滅します。

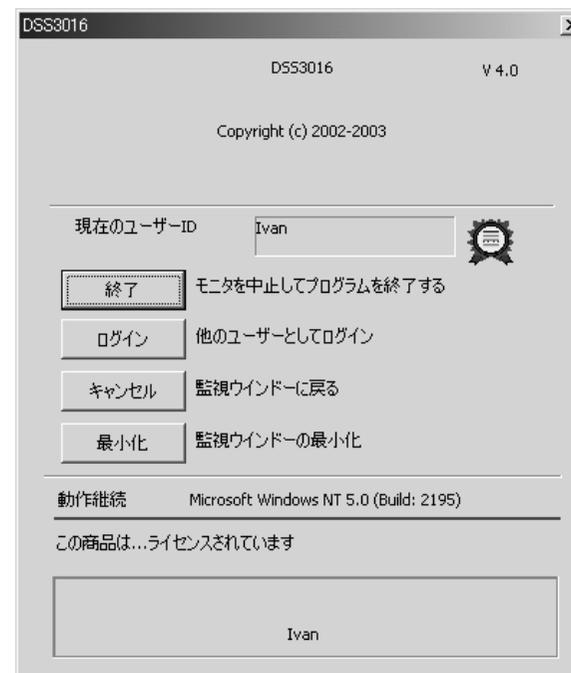
04/15/02 [Monday] 18:01:38 日付/時間

ここには日付と時間が表示されます。

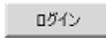


48111の終了/再ログイン

システムを終了またはログインし直したい場合は、 をクリックして下のようなログアウトの画面に入ります。



 をクリックすると監視を終了し、ログアウトします。

 をクリックすると別のユーザとして 48111 監視システムに入ります。

 をクリックするとログアウトをキャンセルし、監視ウィンドウに戻ります。

 をクリックすると監視ウィンドウを最小化します。

第5章 WebCam の使い方

インターネットブラウザ（Internet Explorer）を利用すると、48111サーバから画像を監視することができます。

48111システムには HTTP プロトコルと Web サーバ機能が組み込まれています。

i WebCam 機能は、5.5 以上のバージョンの Internet Explorer で起動する必要があります。

5.1 WebCam を有効にする

リモートブラウザから監視を開始する前に、48111サーバで次のような設定が行われていることを確認してください。

1. IE 設定

コントロールパネルから[インターネットオプション]の設定セクションに入ります。



- [セキュリティ]ページを選択して、それぞれインターネットとローカルインターネットのセクターを設定してください。
- [レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックすると、次のようなダイアログボックスが開きます。[有効]を選択しなければ、[署名済み ActiveX コントロールのダウンロード]と[未署名の ActiveX コントロールのダウンロード]の両方にラジオボタンが表示されます。



2. WebCam を有効にする（「ネットワーク」を参照）

- IP アドレスを確認します。
- リモート送信を行うカメラを選択します。
- [WebCam サーバを有効にする]を選択します。
- [更新]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じます。



3. ネットワークサーバのロード

メインメニューの一番下にある  をクリックして、ネットワーク機能を有効にします。

5.2 WebCam の使い方

Microsoft IE を使って、WebCam のホームページから IP またはドメイン名を入力することによって、任意のサーバにアクセスすることができます。

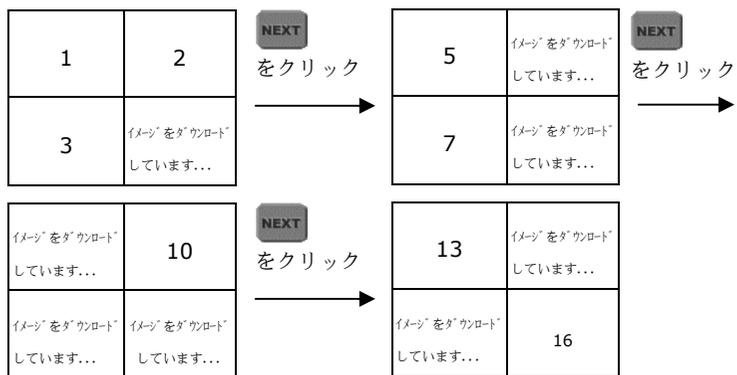


ホームページに入ると、システムデフォルトの 1 カメラ表示になっています。ボタンをクリックすると、画面を分割することができます。

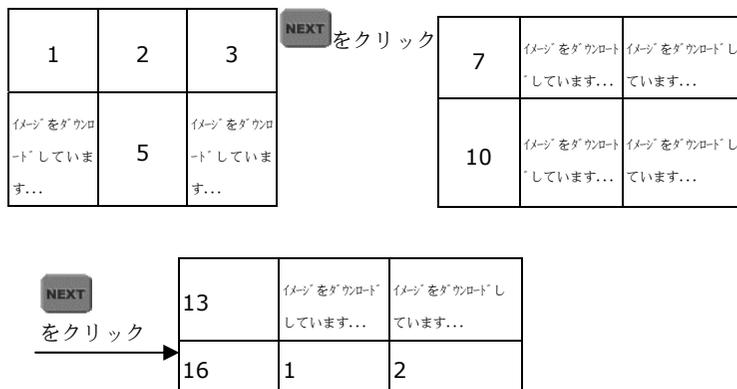
-  1 カメラ表示 (640x480)
-  4 カメラ表示 (320x240)
-  6 カメラ表示 (320x240)
-  8 カメラ表示 (拡大: 480x360, 縮小: 160x120)
-  9 カメラ表示 (320x240)
-  10 カメラ表示 (拡大: 320x240, 縮小: 160x120)
-  16 カメラ表示 (160x120)

リモート転送カメラの数が画面の分割数よりも多い場合は、 をクリックして次のカメラに切り換えることができます。たとえば、リモート転送を行うためにサーバに 1, 2, 3, 5, 7, 10, 13, 16 の合計 8 台のカメラが割り当てられているとします。

4 カメラ表示を選択すると、



6 カメラ表示を選択すると、



別のカメラを他のチャンネルに割り当てると、表示シーケンスを変更することもできます。**SET** をクリックして、 カメラ番号に相当する[サーバチャンネル番号]のドロップダウンメニューからチャンネルを選択します。選択したカメラがリモート表示できない場合は、画像は切り換えられません。

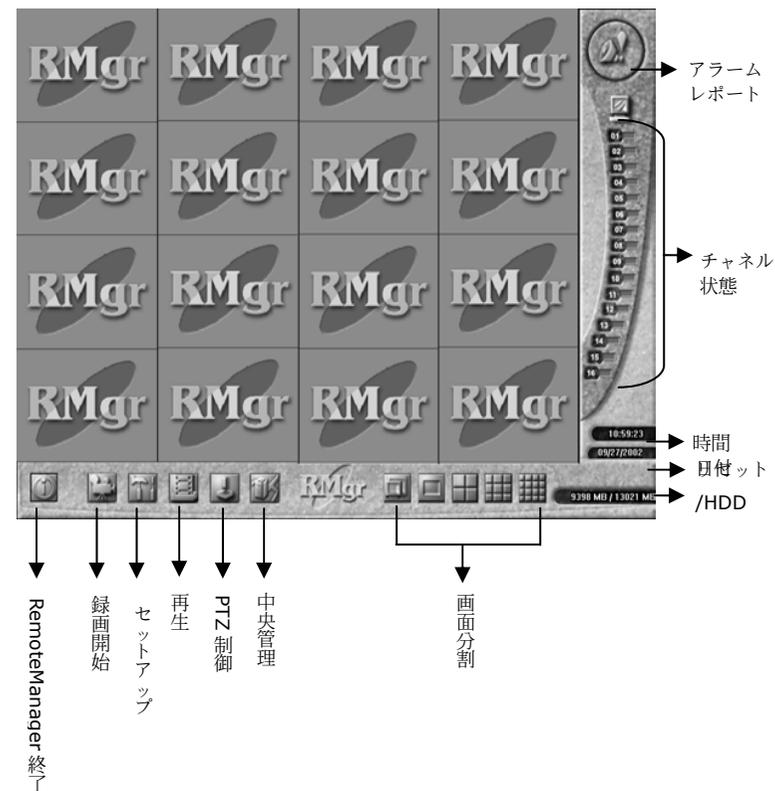
第6章 RemoteManager

6.1 RemoteManager へのアクセス

CD-ROM から RemoteManager (リモート監視プログラム) をインストールする必要があります (第3章「ソフトウェアのインストール」を参照)。

i RemoteManager をご使用になるには、Microsoft 社の OS (Windows 2000 および XP) をお勧めします。

RemoteManager はサーバコンソールから作業するようにして、ワークステーションからサーバを管理するためのプログラムです。このプログラムを利用すると、リモートからサーバを設定することができます。



ログイン

デスクトップ上の RemoteManager のショートカットをクリックしてプログラムを起動すると、[ログイン]のダイアログボックスが開き、プログラムにアクセスするためのユーザ ID とパスワードを入力するよう求められます。初めてのアクセスでは、ユーザ ID は「root」しか使用できません。するとシステムの操作を許可するためのユーザ管理ウィンドウが表示されます。許可の設定を行うための詳細は、**6.3.1「中央管理」**をお読みください。



アラームレポート

アラームが作動すると画像が赤くなり、点滅します。画像をクリックすると詳しいアラーム状態とアラームメッセージが表示されます。これは監視状況をコントロールするのに便利です。



チャンネル状態

全チャンネルの状態が表示されるエリアであり、カーソルをボタンに合わせるとチャンネル、サーバ、カメラの名前が表示されます。

	ダークグレー	すべて無効
	薄いグレイの点滅	ビデオ信号の消失
	青	正常な状態で、画面に画像が表示されています
	濁った青	正常な状態ですが、画像表示が無効になっています
	ピンクレッド	録画中で画面に画像が表示されています
	濃い赤	録画中ですが画像表示が無効になっています



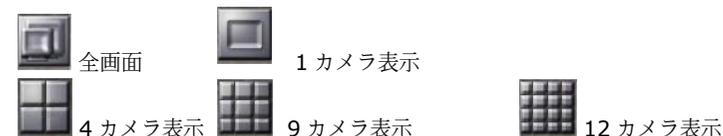
カメラが有効になっていない場合は、このカメラからの画像は上図のようになります（グレースケール）。



カメラがサーバに接続されていない場合、サーバからの信号がローカルカメラに届かない場合は、画像は上図のようになります。信号は受信されるまで1分間隔で送信されます。

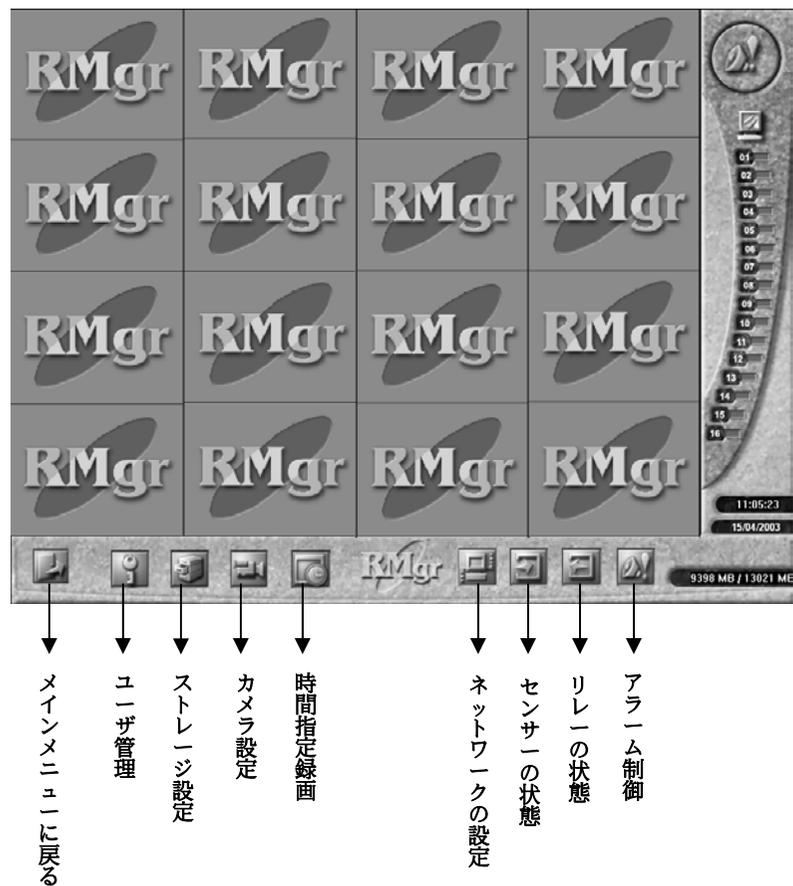
表示モード

画面の表示レイアウトを設定するための表示モードを選択します。



選択したチャンネルモードに関係なく、 [チャンネルの状態]をクリックするとチャンネルを自在に組み合わせることができます。たとえば、4カメラ表示モードを選択した場合、4カメラ表示（1,4, 8, 13）、（3, 5, 7, 8）、またはその他のチャンネルグループを選択して4チャンネルになるようにします。

6.2 設定



6.2.1 ユーザ管理 リレーの状態

ユーザ管理機能は、許可されないユーザがシステムに侵入するのを防止するための機能です。このセクションはルートユーザしか設定することができません。設定を行うには、次の手順にしたがってください。

1. [ユーザ管理]をクリックすると、次のようなウィンドウが開きます。



- [追加/削除/別名を付ける]を使って[ユーザ]フィールドを編集します。
- パスワードを設定し、確認します。
- [保存]をクリックして設定したパスワードを保存します。
- [OK]をクリックして設定内容を保存します。設定を削除するには[キャンセル]をクリックします。
-  をクリックしてメインメニューに戻ります。

6.2.2 ストレージ設定



録画ディスクの割り当て

まずフォルダに録画ディスクを割り当てる必要があります。 をクリックして録画ビデオを保存しておくフォルダを参照し、[追加]ボタンをクリックします。パスの定義に注意してください。録画ファイルが保管されるパスは "\USER\ユーザ ID\" フォルダに作成されています。たとえば、ルートによって示されるパス "C:\Surveillance\recording" は、"C:\Surveillance\recording\USER\root" で検索します。記録したデータを保存するために 1 枚以上のディスクが残っていれば、[削除]ボタンをクリックして録画ディスクを削除することができます。

最小スペースと安全領域

次にハードディスクリサイクルのための最小スペースと安全領域を指定します。ハードディスクをリサイクルするときには、新しく記録したファイルで古いファイルが上書きされます。このようにすることにより、システムは録画したビデオを常に保存できるようにハードディスクのスペースを節約することができます。

最小スペース

ハードディスクの空き領域が指定した値以下になると、システムはハードディスクの再利用を行います。再利用が開始されるための容量は、デフォルト値の 450MB よりも大きくなければなりません。

安全な領域

一度ハードディスクがリサイクルを開始すると、ハードディスクの空き領域が指定した値、たとえば 6000MB (デフォルト値) に達するまでリサイクルが続行されます。安全領域は指定した最小スペースよりも大きく、最低でも 5550MB 以上でなければなりません。

6.2.3 カメラ設定

それぞれ 16 チャンネルが対応するカメラの各サーバの権利に基づいて設定を行います。

次の手順にしたがってください。

1. [カメラ設定] をクリックすると、次のようなウィンドウが開きます。



2. Channel 1 をクリックしてチャンネルの名前を変更します。
3. 各チャンネルのサーバとカメラの名前を選択します。



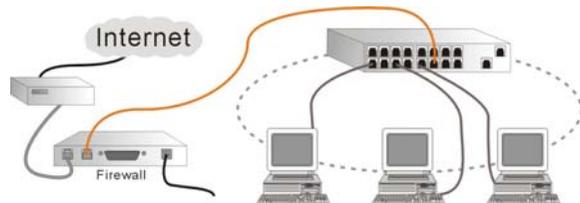
6.2.5 ネットワークの設定

リモート監視している画像を TCP/IP を介して転送するには、まずこのオプションを選択します。すると次のようなダイアログボックスが開きます。



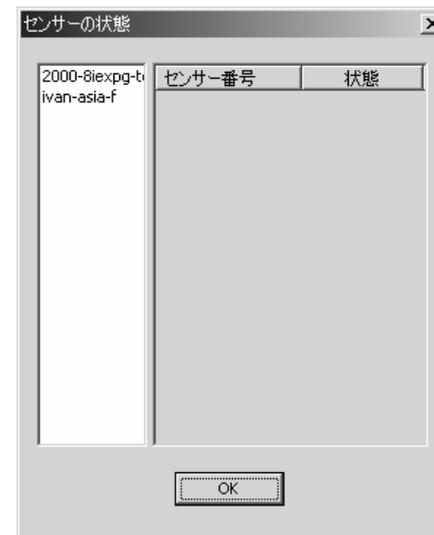
1. **自動割り当て**によりサーバに接続する **TCP ポート** を選択するか、1025 から 65535 の範囲でポートを指定してください。
2. **[OK]** をクリックして設定を保存するか、保存せずにダイアログボックスを閉じるには **[キャンセル]** をクリックします。

次の図は接続の状態を詳しく説明したものです。



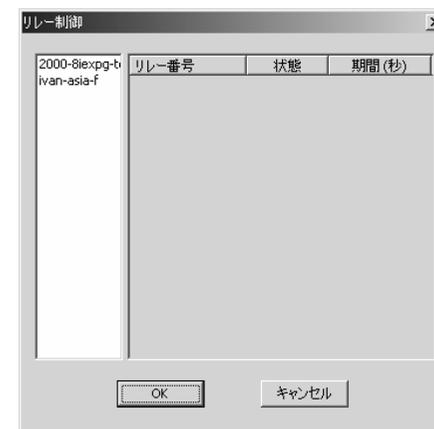
6.2.6 センサーの状態

このボタンをクリックすると、センサーの状態が次のウィンドウに表示されます。



6.2.7 リレーの状態

リレーの状態は、このボタンをクリックすると次のウィンドウに表示されます。あるいは、リレーが作動した後リレー出力を継続する時間を設定することもできます。リレーの長さを **0** に設定すると、リレー出力が継続的に行われます。

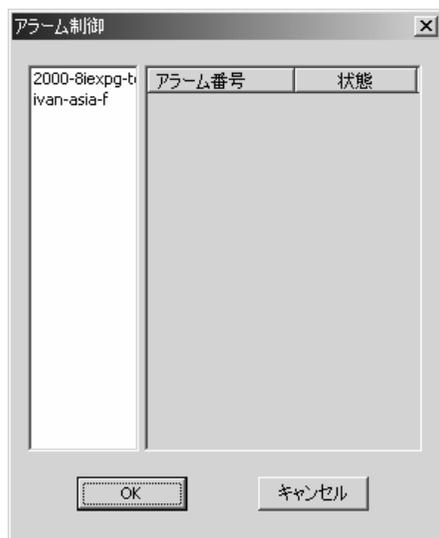




6.2.8 アラーム制御

サーバを選択し、相当するアラームを有効または無効に設定することができます。

1. [アラーム制御]をクリックするとアラーム状態を示すウィンドウが表示されます。
2. アラームを有効にするには、[状態]欄で をクリックして状態を に変更してください。
3. [OK]をクリックして設定を保存します。



6.2.9 メインメニューに戻る

このボタンをクリックすると、メインメニューに戻ります。

6.3 RemoteManager の操作



6.3.1 中央管理

このセクションでは、接続可能なサーバの詳しい情報を管理することができます。初めてシステムを設定する前に、先にこの設定を行ってください。

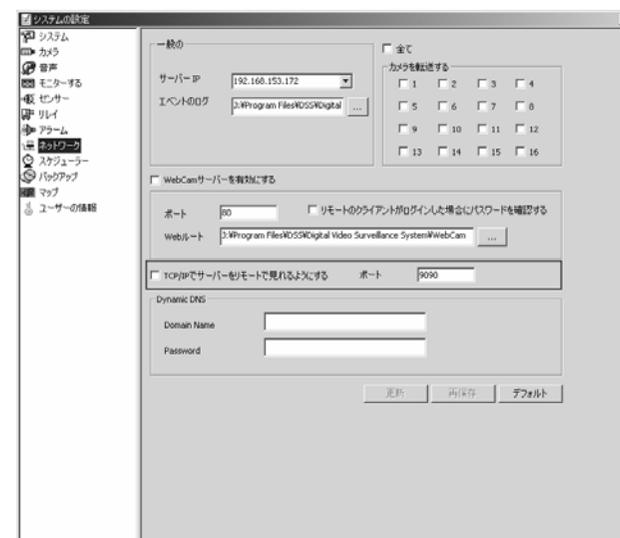
サーバを接続するには、2つの方法があります。

1. Modem to Modem による接続 (付録 A を参照してください)

RemoteManager にアクセスする前に、モデムを使って手動でサーバに接続します。次に新しいサーバをサーバによってインストールされたダイヤルアップサーバと、クライアントによって設定されたダイヤルアップネットワークとして追加します。

2. TCP/IP による接続

[システム設定]の[ネットワーク]セクションで[TCP/IP でサーバをリモートで見られるようにする]を選択したら、TCP/IP を介した新しいサーバを追加することができます。



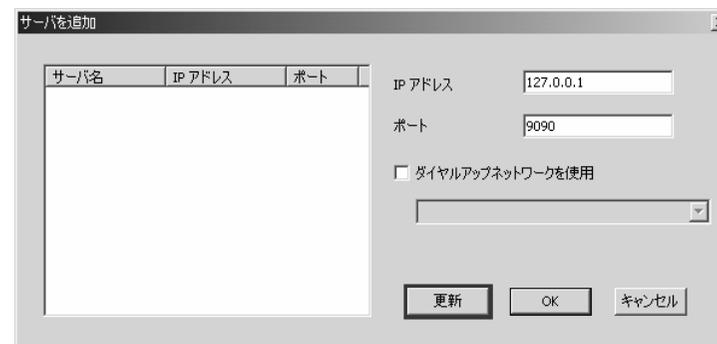
i [中央管理]セクションを設定する前に、[システム設定]の[ネットワーク]セクションで RemoteView サーバが有効になっていることを確認してください。

次の手順にしたがって、設定を完了してください。

1. [中央管理]ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。
2. [追加]をクリックして有効なサーバをサーバリストに追加します。次のような[サーバを追加]ウィンドウが表示されます。または[削除]か[更新]をクリックして設定内容を修正してください。

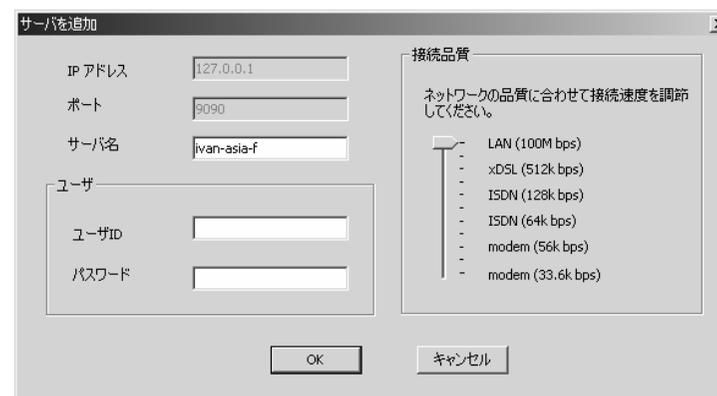


3. ダイアログボックスの左側に、LAN 上のマルチキャストサーバが自動的にリストされます。追加したいサーバを選択して[OK]をクリックするか、サーバをダブルクリックすると新しいマルチキャストサーバが追加されます。



4. WAN 上に新しいサーバを追加するために、任意のサーバの IP アドレスかドメイン名と、サーバの[ネットワーク]セクションで設定したものと同一ポート番号（デフォルトは 9090）を入力します。モデム・トゥ・モデムでネットワーク接続を行う場合は、[ダイヤルアップネットワークを使用]を選択してネットワークの設定を続けます。接続を開始する場合は[OK]を、ダイアログボックスを閉じるには[キャンセル]をクリックしてください。
5. IP アドレスが正確であり、接続に成功した場合は、次の[サーバを追加]のウィンドウにサーバ名が表示されます。サーバ名が表示されない場合は、サーバとリモートクライアントの接続を確認してください。

i ポート番号がサーバ側で変更された場合は、サーバを削除し、新しくサーバを設定してください。



ユーザ

指定したサーバから得たユーザ情報を設定します。

接続品質

ここでは各サーバに対して適切な接続速度を選択し、ネットワークの品質を調整します。スライダバーをドラッグして、11 レベルの中から接続速度を選択してください。たとえば、画像の更新に失敗するようであれば、接続速度を上げるべきです。品質を高くすると、より高いボーレートが求められます。[OK]をクリックすると中央管理に新しいサーバが追加され、[キャンセル]をクリックすると設定を中止します。

i リモートクライアントの接続速度は、できるだけサーバの速度と一致させてください。

- 次のウィンドウで[OK]をクリックすると、サーバのユーザが削除された[カメラ設定]ウィンドウに入ります。カメラ設定の手順については、6.2.3「カメラ設定」をお読みください。



- 上記の手順を繰り返して、新しいサーバを追加します。サーバの最大台数は、16 チャンネルの場合は 16 台までです。



6.3.2 再生

再生モードに入ると、ローカル/リモートハードディスクに記録されたログファイルを見ることができます。このボタンをクリックして、再生したいファイルの種類（ローカル再生またはリモート再生）を選択してください。

ローカル再生
リモート再生

ローカル再生

- [再生]をクリックすると、下のような画面が表示されます。



- タイムダイアグラムに表示されるカメラのリストから、まず任意のカメラフォルダを選択し、その後で時間フォルダ (yy/mm/dd) を選択します。続いて、選択した時間範囲内に記録されたファイルがファイルディレクトリに時間を追ってリストされます。

i ファイルはローカルコンピュータに保管されていますので、ローカルユーザによって有効に設定されたカメラしかリストされません。

- 見たいファイルを選択し、下のボタンを使ってビデオの再生をコントロールしてください。



再生 選択したファイルを再生します。



逆再生



一時停止



スライダバーをドラッグすると、見たいフレームに直接移動することができます。



画像を拡大/縮小します。



明度、コントラスト、色相、彩度を調整できます。



現在の画像を印刷します。



再生パネルを使って任意のフレームを選択し、**[保存]**ボタンをクリックします。



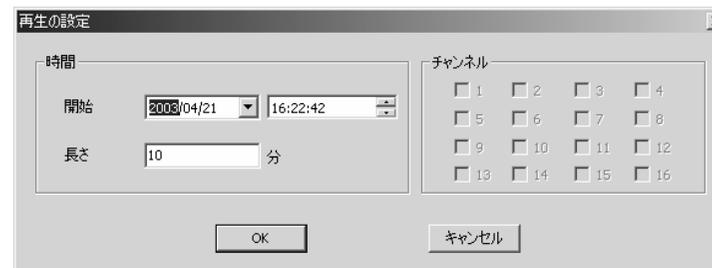
現在のファイルを削除し、**[OK]**をクリックして削除を確認します。



ログファイルを見ているときにこのボタンをクリックすると、ファイルをローカルディスクに保存することができます。

リモート再生

1. **[リモート再生]**を選択して設定を行います。



時間

矢印をクリックして開始時間と長さ（最長 60 分まで）を決定します。

チャンネル

再生中に表示したいチャンネルを選択します。

2. **[OK]**をクリックして設定を保存します。または、**[キャンセル]**をクリックすると、設定を保存せずに次のようなりモート再生ウィンドウに入ります。



3. 前の「ローカル再生」セクションのステップ 2 から 3 を行い、ファイルを表示します。



4.  をクリックすると、メインメニューに戻ります。



6.3.3 PTZ 制御

PTZ カメラをインストールした後は、機能ユーティリティを使って監視システムを制御します。

この機能を使用するには、次の手順にしたがってください。

1. [PTZ 制御] をクリックすると、次のようなウィンドウが表示されます。



2. PTZ カメラに接続されているチャンネル   ...  を指定します。



位置プリセットの設定

PTZ カメラ 1 台につき、あらかじめ設定された位置（位置プリセット）を 16 個まで設定することができます。カメラはあらかじめ設定された位置の番号をクリックすることにより、その位置に移動させることができます。位置プリセットを設定するには、まずその番号を選択し、方向速度を設定します。次に方向コントロールボタン、焦点を合わせる/ぼかす、拡大/縮小ボタンなどを使ってカメラの位置を設定します。最後に静止時間と回転速度を設定し、[保存] ボタンをクリックします。



方向制御

上/下/左/右/左上/左下/右上/右下の 8 個のボタンを使って、カメラの方向を調整します。



方向変換速度

方向コントロールを調整する際、PTZ カメラの移動速度を 4 つの速度から設定することができます。



フォーカスイン

カメラの焦点距離を短くして画像にフォーカスします。



フォーカスアウト

カメラの焦点距離を長くして画像の焦点をぼかします。



拡大

画像を拡大します。



縮小

画像を縮小します。

**休止 (秒)**

オートパンを行う際、このボタンではカメラが次の位置に移動するまで静止している時間を設定します (1~60 秒)。

**回転速度 (度/秒)**

左矢印と右矢印を使って、カメラが現在の位置から次の位置に回転する速度 (5~255 度/秒) を設定することができます。

**保存**

位置プリセットを設定した後は、このボタンをクリックして設定を保存し、次の位置プリセットの設定を行ってください。

**クリア**

現在の位置プリセットの設定をクリアします。

**グループ化**

各 PTZ カメラには 4 つのグループがあり、各グループは次のような位置順になっています。

グループ 1: 位置 1~4

グループ 2: 位置 5~8

グループ 3: 位置 9~12

グループ 4: 位置 13~16

**オートパン**

まずグループ番号を選択し、このボタンをクリックすると機能が有効になります。

**メインメニューに戻る**

これをクリックすると、メインメニューに戻ります。

**6.4 録画の開始**

[時間指定録画]セクションで行った録画設定を手動で有効にします。同時に[チャンネルの状態]フィールドに録画状況が表示され、[録画の開始]ボタンが透明な赤に変わります。

**6.5 RemoteManager の終了**

RemoteManager を終了します。まずユーザを認証するために、パスワードの入力を求められます。次に、プログラムの終了を確認するために、下のようなウィンドウが表示されます。終了する場合は[OK]をクリックし、システムに戻るには[キャンセル]をクリックします。



付録 A: Modem-to-Modem 接続によるリモートログイン

48111サーバとリモートクライアント

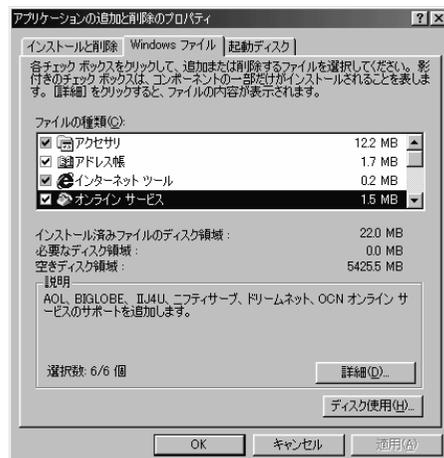
を直接 Modem-to-Modem 接続を介して RemoteManager を起動するには、ご使用になっているオペレーティングシステムの当該セクションの指示にしてください。

i Modem-to-Modem 接続を行う場合は、サーバが Windows 98 システム上で起動されていると、クライアントが Windows 2000 または Windows XP システムからログインすることはできません。つまりサーバが **Windows 98** システムで動作しているときには、クライアントは **Windows 98** システムからしかログインすることはできません。したがって、サーバは **Windows 2000** または **Windows XP** システムで構築するようお薦めします。

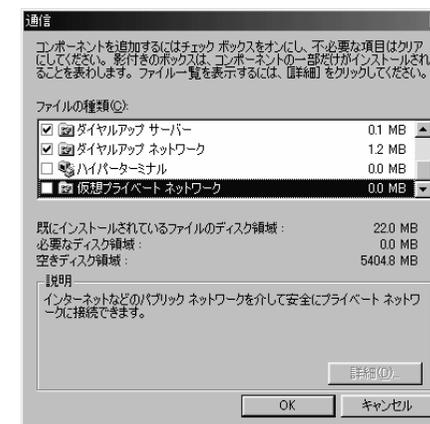
A.1 Windows 98SE / Windows Me

1. サーバ:

A. Dial-up Server をインストールします。コントロールパネルに入り、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。[Windows セットアップ]タブを選択します。



B. [通信]を選択して [詳細(D)...] をクリックすると、[通信]のダイアログボックスが開きます。[ダイヤルアップ サーバー]の横のボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックします。



C. [アプリケーションの追加と削除のプロパティ]のダイアログボックスで [OK]をクリックすると、システムが Dial-up Server のインストールを開始します。Windows 98SE をお使いの場合は、Windows 98SE CD-ROM を挿入するよう要求されます。



D. ダイヤルアップ サーバーのインストールが完了したら、Dial-up Server を有効にする必要があります。[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]を選択し、[ダイヤルアップ ネットワーク]をクリックします。すると次のようなウィンドウが開きます。



- E. [通信]タブをクリックして[ダイヤルアップサーバー]を選択すると、設定ページに入ります。



- F. ダイヤルアップサーバーを有効にするために[着信する]を選択します。

[パスワードの変更]を

クリックしてログイン

パスワードを選択し、

[サーバーの種類]を

クリックしてサーバの

タイプを変更します。ドロップ

ダウンメニューから[PPP]

を選択し、

[OK]をクリックするとサーバ

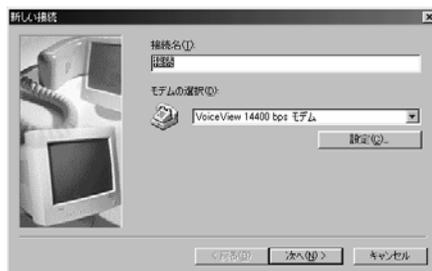
サイドの ISDN 設定が完了

します。



2. クライアント:

- A. [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]を選択し、[ダイヤルアップ ネットワーク]をクリックします。[新しい接続]をダブルクリックするとウィザードが起動します。サーバの名前を入力し、使用している ISDN デバイスを選択します。[次へ]をクリックして作業を続行します。



- B. 市外局番も含めてサーバの電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックすると新しい接続が作成されます。



- C. [ダイヤルアップ ネットワーク]ウィンドウに戻り、作成した接続をダブルクリックします。[接続]のダイアログボックスで、サーバの ISDN を設定する手順のステップ F で設定したユーザ名とパスワードを入力します。[Connect] をクリックすると 48111 サーバへ接続されます。



- D. 接続したら、[スタート]-[プログラム]-[デジタルビデオ監視システム]-[RemoteManager]をクリックします。ログインについては、第 6 章「RemoteManager」を参照してください（デフォルトの IP アドレスは 192.168.55.1 です）。

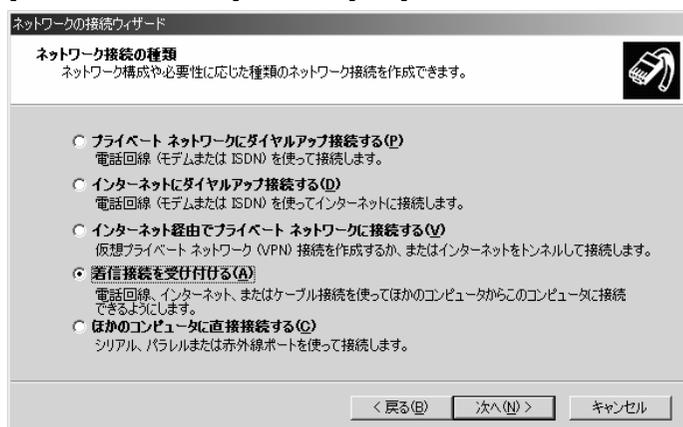
A.2 Windows 2000

1. サーバ:

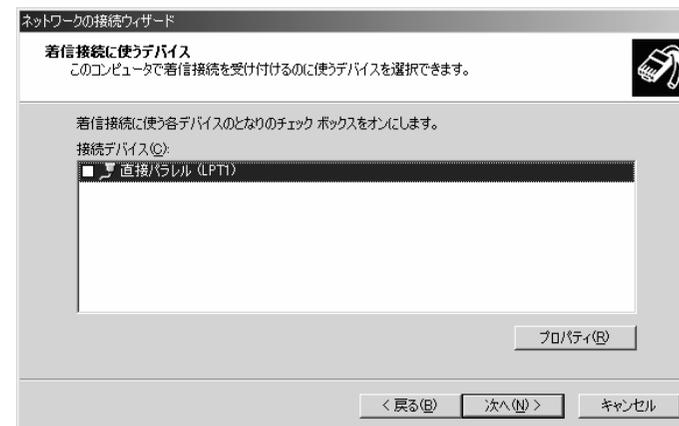
- A. [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信ウィザード]を選択します。[次へ]ボタンをクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックします。[ネットワーク接続]ウィンドウで[新しい接続の作成]をダブルクリックすると、ネットワーク接続が行われます。



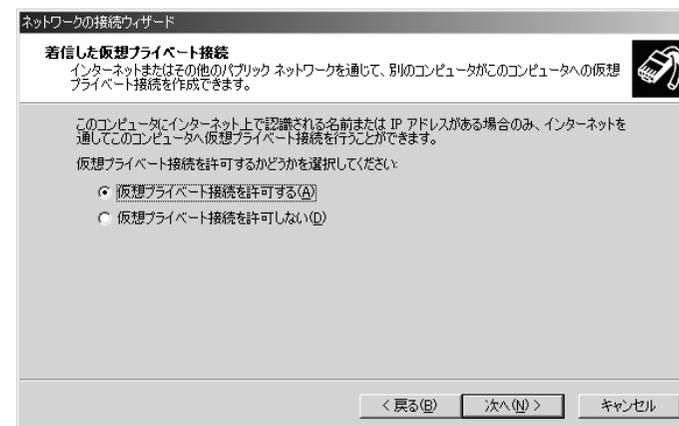
- B. [着信接続を受け付ける]を選択し、[次へ]をクリックします。



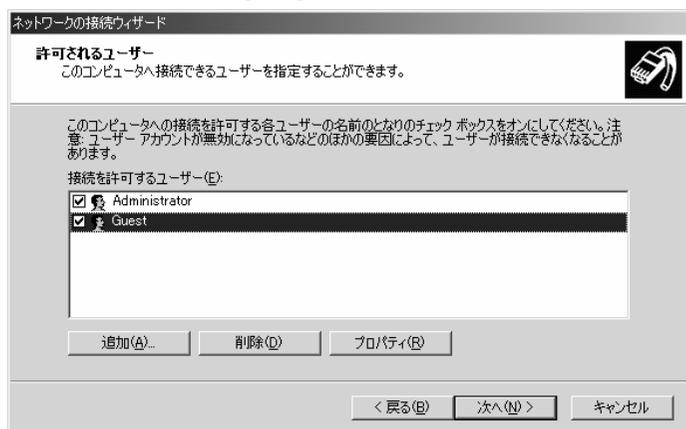
- C. 使用している ISDN デバイスを選択し、[次へ]をクリックします。



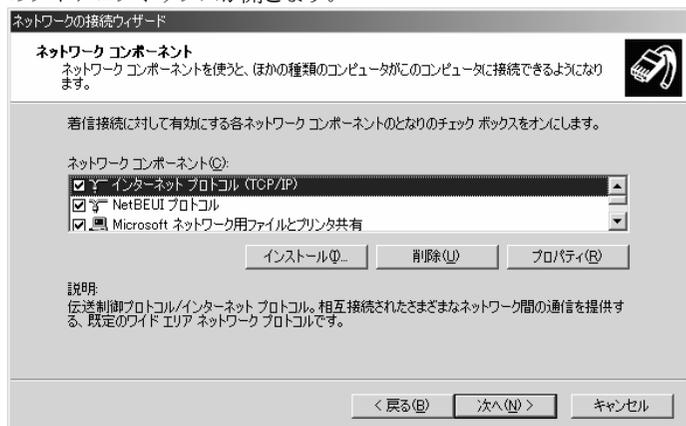
- D. [仮想プライベート接続を許可する]を選択し、[次へ]をクリックします。



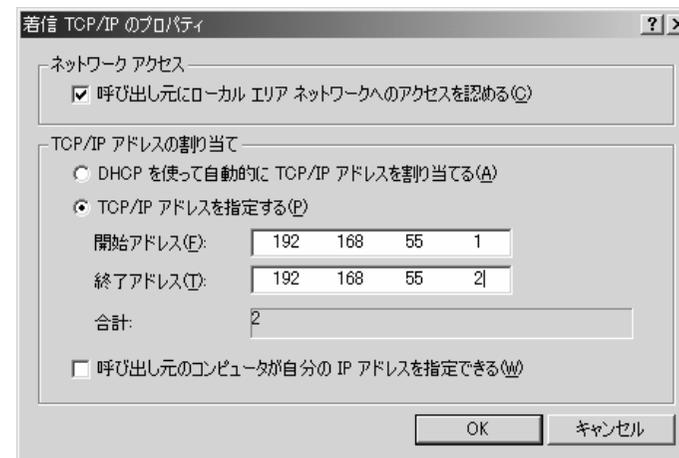
- E. このコンピュータにアクセスすることが許可されたユーザをリストから選択するか、**追加(A)...** をクリックして新しいユーザを作成します。各ユーザごとに **プロパティ(P)** をクリックして、ユーザがサーバにログインするときに必要となるパスワードを設定してください。設定が完了したら、**[次へ]** をクリックします。



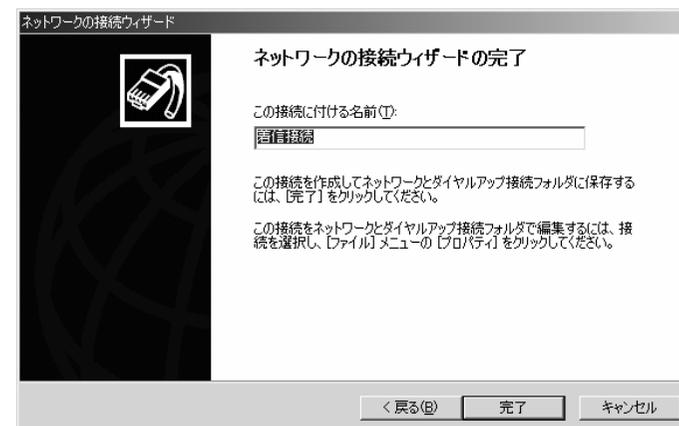
- F. **[インターネット プロトコル (TCP/IP)]** が選択されていることを確認し、**プロパティ(P)** をクリックすると**[着信 TCP/IP のプロパティ]** のダイアログボックスが開きます。



- G. **[呼び出し元にローカル エリア ネットワークへのアクセスを認める]** と **[TCP/IP アドレスを指定する]** を選択します。[IP から] を **192.168.55.1**、[IP へ] を **192.168.55.2** に設定します。[OK] ボタンをクリックし、ネットワークの**接続ウィザード**で**[次へ]** をクリックします。



- H. **[完了]** ボタンをクリックするとサーバサイドの ISDN 設定が終了します。

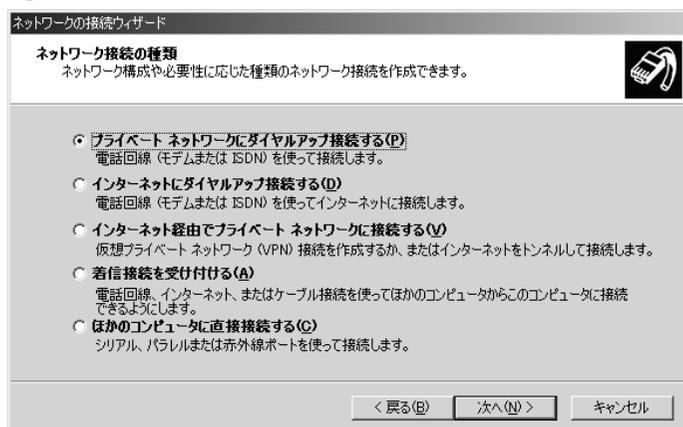


2. クライアント:

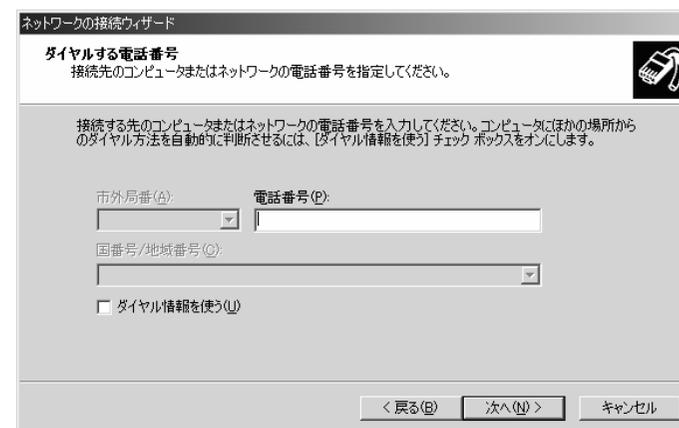
- A. [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]を選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続を開く]をクリックします。[ネットワークとダイヤルアップ接続を開く]ウィンドウで[新しい接続の作成]をダブルクリックすると、ネットワークの接続ウィザードが起動します。[次へ]をクリックしてください。



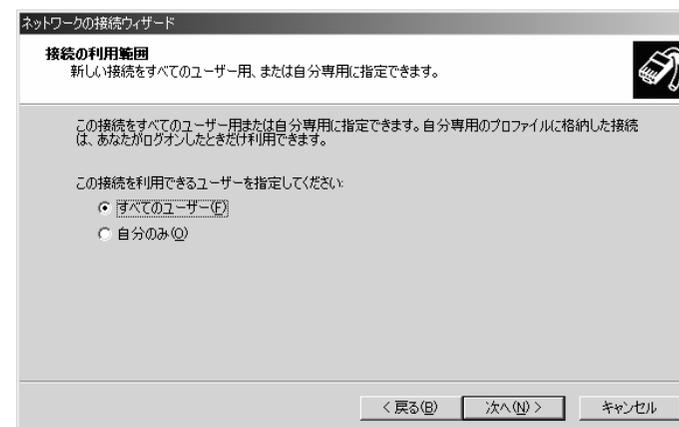
- B. [プライベート ネットワークにダイヤルアップ接続する]を選択し、[次へ]をクリックします。



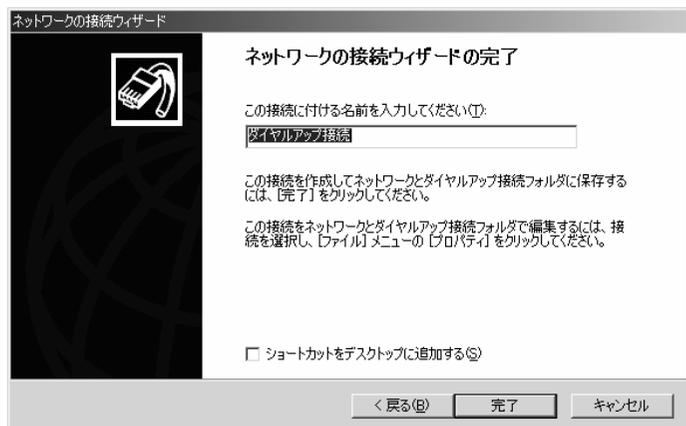
- C. 市外局番を含めたサーバの電話番号を入力し、[次へ]をクリックします。



- D. [すべてのユーザー]を選択し、[次へ]をクリックします。



E. [完了]ボタンをクリックすると接続の設定が終了します。



F. [ネットワークとダイヤルアップ接続]ウィンドウに戻り、作成した接続をダブルクリックします。ダイアログボックスで、サーバの ISDN を設定する手順のステップ E で設定したユーザ名とパスワードを入力します。 **Dial** をクリックすると 48111 サーバへ接続されます。

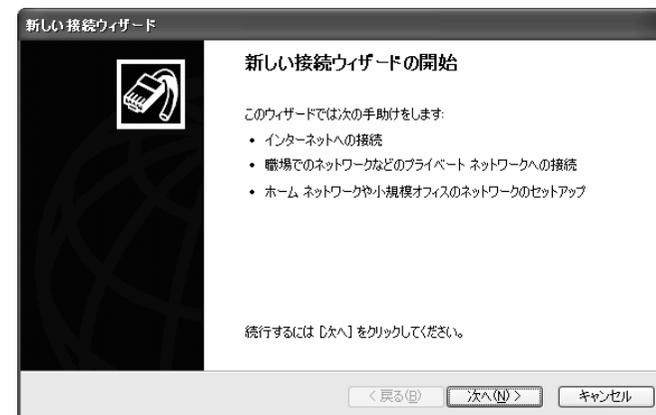


G. 接続したら、[スタート]-[プログラム]-[デジタルビデオ監視システム]-[RemoteManager]をクリックします。ログインについては、第 6 章「RemoteManager」を参照してください。

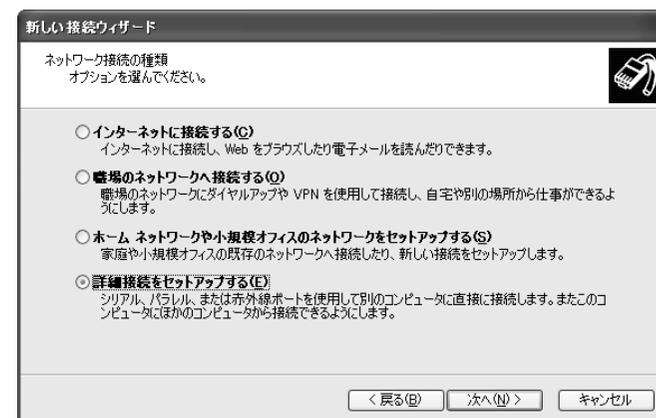
A.3 Windows XP

1. サーバ:

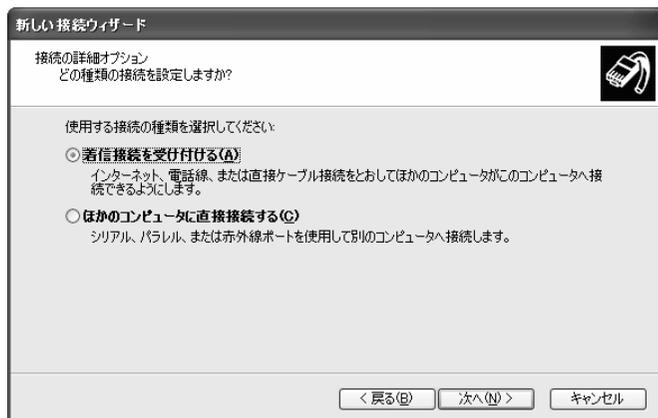
A. [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]を選択し、[新しい接続ウィザード]をクリックします。[次へ]をクリックします。



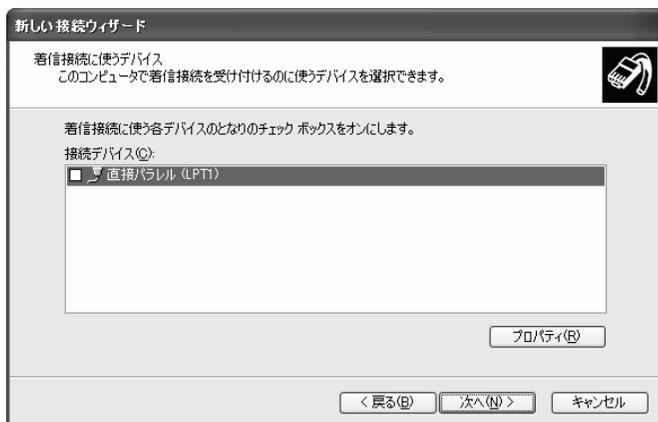
B. [詳細接続をセットアップする]を選択し、[次へ]をクリックします。



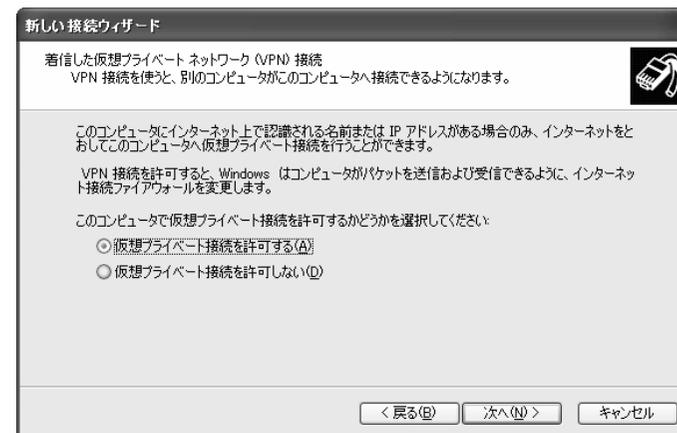
- C. [着信接続を受け付ける]を選択し、[次へ]をクリックします。



- D. お使いになる ISDN デバイスを選択し、[次へ]をクリックします。



- E. [仮想プライベート接続を許可する]を選択し、[次へ]をクリックします。



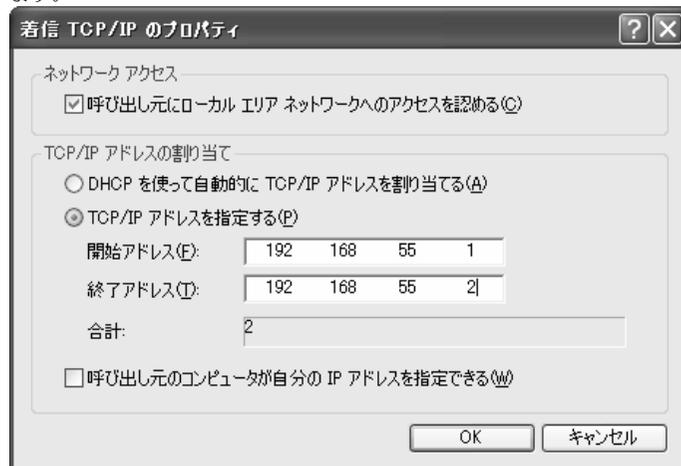
- F. このコンピュータにアクセスすることが許可されたユーザをリストから選択するか、[追加(A)...]をクリックして新しいユーザを作成します。各ユーザごとに [プロパティ(P)] をクリックして、ユーザがサーバにログインするときに必要なパスワードを設定してください。設定が完了したら、[次へ]をクリックします。



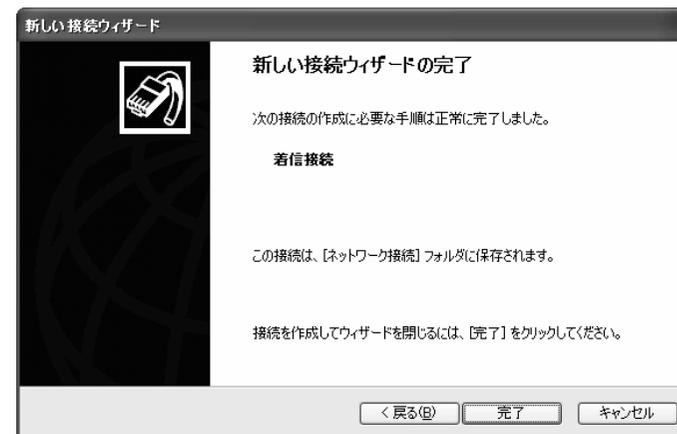
- G. [インターネット プロトコル (TCP/IP)]が選択されていることを確認し、**プロパティ(P)** をクリックすると**[着信 TCP/IP のプロパティ]**のダイアログボックスが開きます。



- H. [呼び出し元にローカル エリア ネットワークへのアクセスを認める]と**[TCP/IP アドレスを指定する]**を選択します。[IP から]を**192.168.55.1**、[IP へ]を**192.168.55.2**に設定します。[OK]ボタンをクリックし、ネットワークの**接続ウィザード**で**[次へ]**をクリックします。

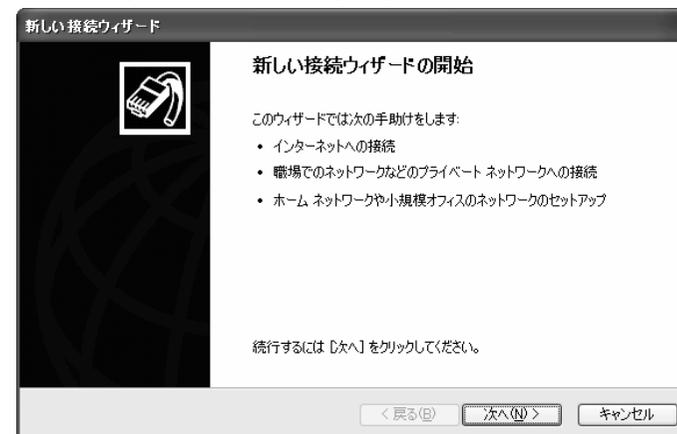


- I. [完了]ボタンをクリックするとサーバサイドの ISDN 設定が終了します。

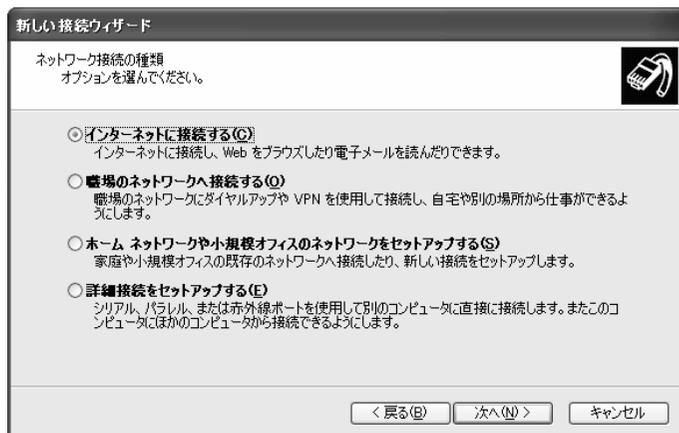


2. クライアント:

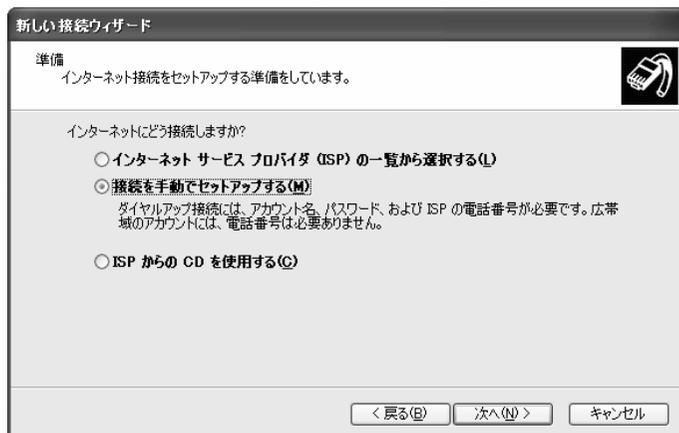
- A. [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]を選択し、**[新しい接続ウィザード]**をクリックします。[次へ]をクリックします。



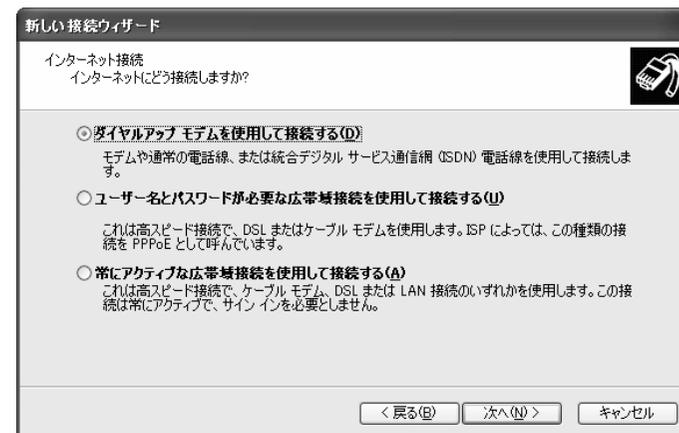
B. [インターネットへの接続]を選択し、[次へ]をクリックします。



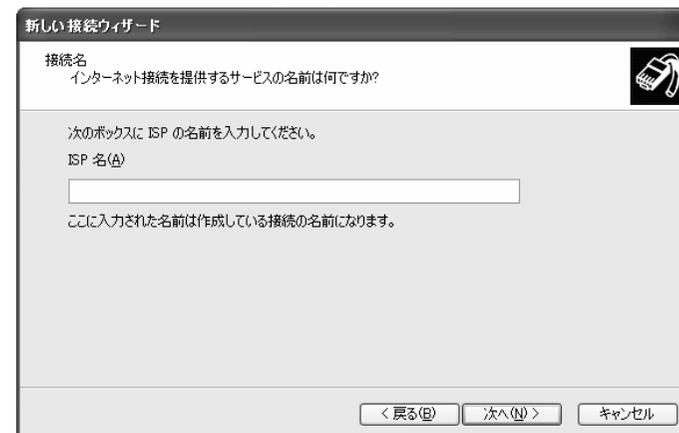
C. [接続を手動でセットアップする]を選択し、[次へ]をクリックします。



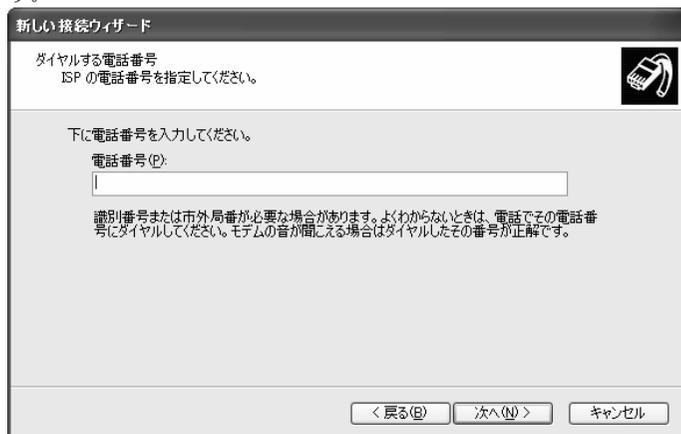
D. [ダイヤルアップ モデムを使用して接続する]を選択し、[次へ]をクリックします。



E. この接続の名前を入力し、[次へ]をクリックします。



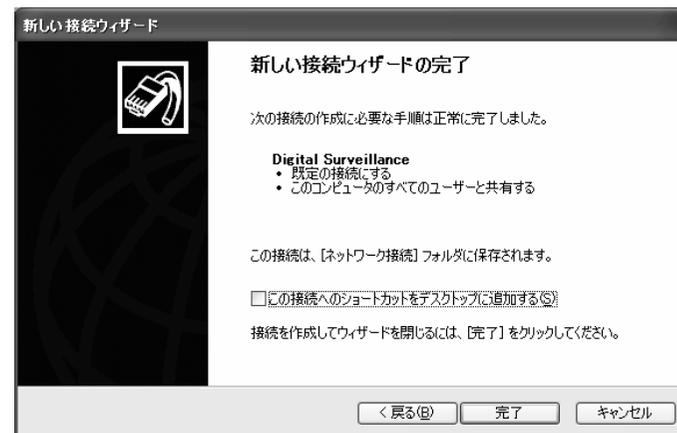
- F. 市外局番を含めたサーバの電話番号を入力し、[次へ]をクリックします。



- G. サーバの ISDN を設定する手順のステップ F で設定したユーザ名とパスワードを入力します。[次へ]をクリックします。



- H. [完了]ボタンをクリックして接続の設定を終了します。



- I. [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]を選択し、[ネットワーク接続]をクリックします。作成した接続をダブルクリックします。ダイアログボックスで、サーバの ISDN を設定する手順のステップ F で設定したユーザ名とパスワードを入力します。[ダイヤル]をクリックすると48111サーバへ接続されます。



- J. 接続したら、[スタート]-[プログラム]-[デジタルビデオ監視システム]-[RemoteManager]をクリックします。ログインについては、第 6 章「RemoteManager」を参照してください。

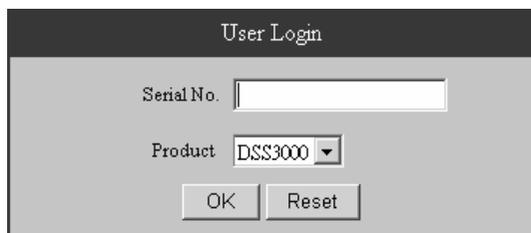
付録 B: DDNS サーバの登録

DDNS (Dynamic Domain Name System) は、ホスト名をインターネットアドレスに翻訳するために主にインターネット上で使用されるデータクエリーサービスです。初めてサーバのインターネットアドレスをクエリーする場合であっても、リモートクライアントはダイナミックサーバをスマートに検索することができます。

便利なサービスをフルに活用するために、次の Web サイトで DDNS サーバの登録を行ってください _____

1. ユーザログイン

Microsoft IE や Netscape Navigator を使って Web サイトを開き、次のダイアログにアクセスします。



The image shows a 'User Login' dialog box with a dark header. It contains two input fields: 'Serial No.' with a text box and 'Product' with a dropdown menu showing 'DSS3000'. Below the fields are two buttons: 'OK' and 'Reset'.

製品のシリアル番号を入力し、製品名を選択してください。次に、**[OK]**をクリックしてログインします。または前の入力をクリアするには**[リセット]**をクリックします。

2. パスワードユーザを識別するためのパスワードを設定します。



The image shows an 'Input your password' dialog box with a dark header. It contains a 'Password' label followed by a text box with masked characters. Below the text box are two buttons: 'OK' and 'Reset'.

3. ユーザ情報

ホスト名、パスワード、**E-mail**、**会社名**、**国名**を入力して登録を行ってください。

i ホスト名とドメイン名は、リモートクライアントがダイナミックサーバを検索するときにインターネットアドレスの代りとなります。